

第9回金沢市教育委員会定例会議

- 1 日 時：平成30年9月26日（水） 13時30分～15時00分（予定）
- 2 場 所：金沢市庁舎 2階 201会議室
- 3 審議等

	頁
議案第22号 金沢市指定文化財の指定について (文化財保護課)・・・	1
議案第23号 金沢市文化財保護審議会への諮問について 【非公開案件】(文化財保護課)・・・	3
報告第23号 障害者雇用率の調査結果について (教育総務課)・・・	4
報告第24号 中央地区教育施設再整備基本計画(中央小学校・玉川こども図書館等) (概要)について (教育総務課)・・・	6
報告第25号 金沢市立小中学校施設の耐震化の状況について (教育総務課)・・・	8
報告第26号 平成30年度「金沢市『携帯電話・インターネット』アンケート」の 結果概要について (学校指導課)・・・	10
報告第27号 平成30年度金沢市教員採用候補者選考試験(金沢市立工業高等学校教員) の結果について 【非公開案件】(学校職員課)・・・	12

その他

- (1) 平成30年度 金沢市小・中学校卒業式日程について
- (2) 金沢市立工業高校 創立九十周年記念事業について
- (3) 金沢市立工業高等学校の活動状況について(平成30年4月～平成30年9月)
- (4) 平成30年度夏季休業中の教職員研修について
- (5) 平成30年度海外教育派遣研修について
- (6) 次回の定例会議の日程について

金沢市指定文化財の指定について

平成 30 年 9 月 26 日提出

金沢市文化スポーツ局

局長 嶋浦 雄峰

答 申 書

平成30年5月23日の教育委員会で金沢市指定文化財に指定の諮問があった下記の文化財について、金沢市指定文化財としてふさわしいものとして答申します。

記

- 1 有形文化財 建造物「旧中^{なか}や」
- 2 有形文化財 古文書「宇多須^{うたす}神社^{じんじや}文書^{もんじよ}」
- 3 有形文化財 歴史資料「宇多須^{うたす}神社^{じんじや}関係資料^{かんげしりょう}」

平成30年8月1日

金沢市文化財保護審議会
会 長 東四柳 史 明



金沢市文化財保護審議会への諮問について

【非公開案件】

平成30年9月26日提出

金沢市文化スポーツ局

局長 嶋浦 雄峰

障害者雇用率の調査結果について

平成 3 0 年 9 月 2 6 日提出

金沢市教育委員会

教育長 野口 弘

障害者雇用率の調査結果について

1 概要

障害者雇用率について、国のガイドラインでは、職員全員に照会を行い、本人の同意に加え、障害者手帳や指定医の診断書等による確認ができたものにより算定することとされている。

本市では、職員の中には同意書や障害者手帳の写しの提出をためらう者もいると思われる一方で、プライバシーに関わる問題のため強制することも認められていないなど、正確な状況の把握が難しい面があったことから、本人から提出される現況報告書の記載に基づくことが、より正確な障害者数の把握につながると判断し、その数で報告してきたものである。

しかしながら、障害者雇用率の算定手法が全国的な課題となっていることから、国のガイドラインに沿って、職員全員を対象として同意書及び障害者手帳の写しの提出を求める緊急の職員調査を実施し、その結果を取りまとめた。

2 調査結果

- (1) 調査期間 平成30年8月24日から同月30日まで
- (2) 調査対象 577人（正規職員342人、非常勤職員235人）
- (3) 調査結果 同意書及び障害者手帳の写しの提出のあった職員数を集計
(詳細は右記のとおり)

3 今後の対応

市長部局と同様の対応とする。

(障害者職員採用試験を継続して実施するほか、職員全員に制度の趣旨を伝え、対象者の同意を得るよう努めるとともに、国の方針等を待って適切に対応していきたい。

併せて、障害者雇用率のみを意識するのではなく、障害者の能力を活かすことができる業務の精査など障害のある職員の働く環境の整備等にも意を用いてまいりたい。

○ 調査結果

平成30年6月1日時点

【教育委員会】(法定雇用率2.4%)

報告値	障害者数	障害者数内訳			実雇用率
		手帳(障害者採用)	手帳(その他)	疾病等	
	13.5人	0.0人	13.5人	0.0人	2.74%
調査結果	障害者数	調査結果内訳		実雇用率	不足数
		提出あり	提出なし		
	13.5人	13.5人	0.0人	2.74%	0.0人

《参考》

【市長部局】(法定雇用率2.5%)

報告値	障害者数	障害者数内訳			実雇用率
		手帳(障害者採用)	手帳(その他)	疾病等	
	56.5人	7.0人	23.0人	26.5人	2.51%
調査結果	障害者数	調査結果内訳		実雇用率	不足数
		提出あり	提出なし		
	29.0人	29.0人	27.5人	1.29%	27.0人

【企業局】(法定雇用率2.5%)

報告値	障害者数	障害者数内訳			実雇用率
		手帳(障害者採用)	手帳(その他)	疾病等	
	8.0人	2.0人	5.0人	1.0人	3.41%
調査結果	障害者数	調査結果内訳		実雇用率	不足数
		提出あり	提出なし		
	5.0人	5.0人	3.0人	2.14%	0.0人

※ 「障害者数」は、法律上、短時間勤務非常勤職員以外の重度(1級又は2級)の者は2人として、短時間勤務非常勤職員は0.5人(重度の者は1人)として計算する。

※ 「手帳(障害者採用)」は、平成24年度から実施している障害者職員採用試験による採用者数

※ 「手帳(その他)」は、現況報告書における手帳所持自己申告者数

※ 「不足数」は、法律上、算定基礎職員数に法定雇用率を乗じて得た数(1未満の端数切り捨て)から「障害者数」を減じて得た数であり、これが0.0人となることをもって法定雇用率達成となる。

中央地区教育施設再整備基本計画(中央小学校・玉川こども図書館等)
(概要) について

平成 3 0 年 9 月 2 6 日提出

金沢市教育委員会

教育長 野口 弘

中央地区教育施設再整備基本計画(中央小学校・玉川こども図書館等) (概要) について

1 基本計画策定の趣旨

小将町中学校の規模適正化や中央小学校児童の中学校進学先の一本化に向けた、小将町中学校及び中央小学校の移転等による中央地区教育施設の再整備について、平成30年2月に有識者や地域関係者、学校関係者で構成される中央地区教育施設再整備検討懇話会から意見書が提出されたことを踏まえ、今回、中央小学校の移転及びこども図書館の改築等に係る基本計画を策定する。

2 基本方針

- (1) 玉川こども図書館の敷地へ中央小学校を移転する。
- (2) 老朽化が進む玉川こども図書館については、小学校の移転と併せ改築し、公文書館を併設する。
- (3) 教育・学習環境の向上を図るとともに、中央地区にふさわしい歴史、文化の集積と憩いと潤いのある空間の充実を図る。

3 再整備に向けた具体的な考え方

(1) 再整備場所の面積

小学校、玉川こども図書館(公文書館を併設)の用地については、玉川公園の一部(2,300㎡程度)を活用し、約10,000㎡とする。

(2) 地下空間の有効活用

敷地を有効に活用し、図書館利用者等の利便性のさらなる向上を図るため、地下駐車場や施設の一部地階を整備する。

(3) 児童の安全確保

児童の安全確保と図書館利用者等の利用環境の両立を図るため、玉川こども図書館(公文書館を併設)は、小学校とは別の独立した施設とする。

(4) 玉川こども図書館の機能の充実

これまでの玉川こども図書館と玉川図書館、玉川公園の利用形態を考慮するとともに、さらなる利用者の利便性向上に向けた施設整備等を行い、機能の充実を図る。

(5) 玉川公園の一部改修

玉川公園は、できるだけ現在の形状を大切にしながら、大型遊具の移設や、必要に応じた樹木の移植など、更なる利用者の利便性向上に向けた一部改修を図る。

(6) 知的資源の集積

公文書館整備基本計画に基づき、古文書を保存する近世史料館や郷土資料を保存する玉川図書館に隣接する玉川こども図書館に、公文書館を併設し、歴史公文書の良好な環境での保存や知的資源としての歴史公文書の利用を図る。

(7) 文教地区にふさわしい整備

周辺の景観との調和を図るとともに、日照時間、騒音、砂塵等の影響など、近隣の住環境に十分配慮した適正な施設配置を行う。

(8) 周辺交通環境の改善

周辺の交通渋滞状況の改善、緩和とともに、施設利用者の利便性向上に向け、図書館、公園、学校等全体を見通した施設配置や駐車場の整備等を行う。

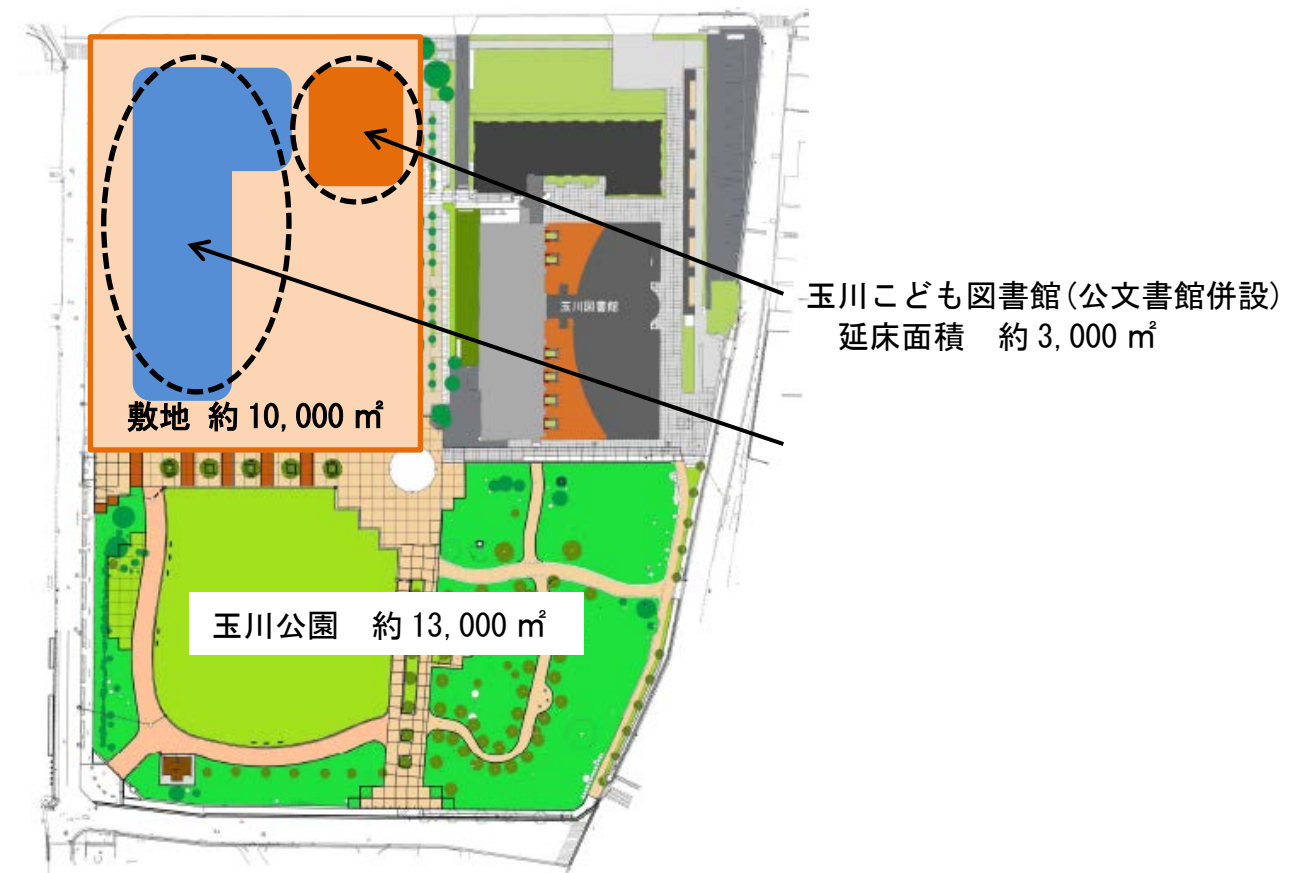
(9) 地域とともにある学校づくりの推進

小学校の建設にあたっては、地域とともにある学校をめざし、地域開放スペースや放課後児童クラブ、防災倉庫などの配置について、地域住民の意見を踏まえながら進める。

4 施設の概要(概算:延べ床面積)

- (1) 小学校 : 約7,300㎡
(内訳) 校舎部分(約6,450㎡) 体育館部分(約850㎡)
- (2) こども図書館: 約2,600㎡
- (3) 公文書館 : 約400㎡

5 施設の配置(案)



6 今後のスケジュール(予定)

2018年度	基本設計等
2019年度	実施設計等
2020年度～21年度	施設整備

金沢市立小中学校施設の耐震化の状況について

平成 30 年 9 月 26 日提出

金沢市教育委員会

教育長 野口 弘

金沢市立小中学校施設の耐震化の状況について

1 本市学校施設の耐震化率の推移（木造を除く）

区分	平成31年4月1日(見込み)	平成30年4月1日	平成29年4月1日
耐震化率	98.3%	96.1%	94.5%
全棟数	401	409	414
耐震済の棟数	394	393	391
未耐震の棟数	7	16	23

〔参考〕平成30年4月1日現在

全 国	99.2%
石川県	98.8%
金沢市	96.1%

2 平成30年度の耐震化工事

新竪町小・菊川町小学校統合校仮設校舎借上設置

3 平成31年度以降の予定

- (1) 森山町小学校校舎の改築
- (2) 泉中学校体育館の整備
- (3) 新竪町小・菊川町小学校統合校の新築工事
- (4) 特別支援教育サポートセンター(仮称)の整備（中央小学校芳齋分校）

平成30年度「金沢市『携帯電話・インターネット』アンケート」の
結果概要について

平成30年9月26日提出

金沢市教育委員会

教育長 野口 弘

平成30年度「金沢市『携帯電話・インターネット』アンケート」の結果概要について

1 調査概要

(1) 調査目的

金沢市立小・中・高等学校児童生徒の携帯電話やインターネット等の利用状況について実態等を把握し、今後の取組に生かす。

(2) 実施時期

- ・アンケートの配付 平成30年6月25日（月）～6月29日（金）
- ・アンケートの回収 平成30年6月26日（火）～7月6日（金）

(3) 調査対象

金沢市立小学校に在籍する4、5、6年生の全児童
金沢市立中学校・高等学校に在籍する全生徒

(4) 内 容

無記名方式で実施

(5) 調査人数

小学校：11,734名 中学校：10,890名 高等学校：715名

2 調査結果：別紙資料参照

(1) 携帯電話・スマートフォンの所持状況（問1）

- ・小の所持率は36.7%、中は45.4%、高では98.5%である。前年度より、小は2.8ポイント、中は5.9ポイント増加し、高は0.1ポイント減少した。また、スマートフォンの所持率は、小は1.8ポイント、中は5.6ポイント、高は0.3ポイント増加した。

(2) フィルタリングサービスの設定状況（問2）

- ・「設定されている」と回答した割合は、小は51.8%、中は42.4%、高は47.7%であり、昨年同様、中のフィルタリングの設定状況の割合が最も低い。

(3) インターネット接続可能機器の所持状況（問3）

- ・小は85.8%、中は89.2%、高は81.0%が所持している。小・中・高とも「ゲーム機」が最も多く、小では「タブレット端末など」の所持率が、年々増加している。その他にも、問1よりスマートフォン等による接続が可能である。

(4) 携帯電話、インターネット接続可能機器等の使用時間（問4）

- ・年齢が上がるほど長くなる傾向があり、1日3時間以上の使用について小は11.4%、中は17.7%、高は31.5%であり、前年度より小は2.0ポイント、中は1.6ポイント増加した。「1時間までの使用」は、小・中ともに減少している。

(5) 携帯電話、インターネット接続可能機器等の使用時のルール（問5）

- ・使用時のルールを「特に決めていない」と回答した割合は、小・中・高ともに減少傾向にあるものの、小は21.6%、中は35.2%、高は71.6%が「特に決めていない」と回答している。

(6) インターネットの使用内容（問6）

- ・小、中、高とも、調べ物やゲームで使用する事が多く、メールや無料通話アプリを使用する割合は、小・中・高ともに年々増加している。

(7) インターネットによる被害を受けた状況（問7）

- ・「特になし」と回答した割合は、小は98.4%、中は89.3%、高は92.0%であり、小・中・高ともに、昨年より増加している。

(8) インターネットによる不適切な行為の状況（問8）

- ・少数ではあるが、「知り合った人と電話・メールをした」「知り合った人に会った」という児童生徒が、小・中・高ともにいる。

(9) インターネットに関する知識理解の状況（問9）

- ・インターネットによる誹謗中傷は犯罪であることについて、小・中・高ともに「思う」が昨年より増加し、「思わない」「分からない」が減少している。
- ・インターネット上の書き込みは完全に消せないことについて、「思う」と答えた児童生徒は、小・中で増加した。
- ・インターネット上の書き込みは誰が書いたか調べることができることについて「思う」と答えた児童生徒は、小・中で増加した。

平成 30 年度金沢市教員採用候補者選考試験
(金沢市立工業高等学校教員) の結果について
【非公開案件】

平成 30 年 9 月 26 日提出

金沢市教育委員会

教育長 野口 弘

平成30年度 金沢市小・中学校卒業式日程について

○平成31年3月9日(土) 午前10時 24中学校(合併設3小学校)

泉中学校	野田中学校	城南中学校	紫錦台中学校
兼六中学校	小将町中学校	高岡中学校	鳴和中学校
長田中学校	浅野川中学校	金石中学校	湯涌小・芝原中学校
西南部中学校	内川小・中学校	犀生中学校	医王山小・中学校
森本中学校	額中学校	高尾台中学校	緑中学校
港中学校	北鳴中学校	大徳中学校	清泉中学校

○平成31年3月18日(月) 午前10時 13小学校

十一屋小学校	兼六小学校	中央小学校	森山町小学校
千坂小学校	大浦小学校	大野町小学校	押野小学校
三馬小学校	富樫小学校	犀川小学校	三谷小学校
安原小学校			

○平成31年3月18日(月) 午後1時 13小学校

菊川町小学校	小立野小学校	諸江町小学校	馬場小学校
浅野町小学校	栗崎小学校	米丸小学校	田上小学校
花園小学校	扇台小学校	木曳野小学校	西南部小学校
西小学校			

○平成31年3月19日(火) 午前10時 13小学校

泉小学校	新堅町小学校	長田町小学校	夕日寺小学校
大徳小学校	緑小学校	額小学校	森本小学校
三和小学校	長坂台小学校	新神田小学校	米泉小学校
杜の里小学校			

○平成31年3月19日(火) 午後1時 13小学校

中村町小学校	泉野小学校	明成小学校	小坂小学校
浅野川小学校	鞍月小学校	金石町小学校	戸板小学校
東浅川小学校	不動寺小学校	南小立野小学校	伏見台小学校
四十万小学校			

金沢市立工業高校 創立九十周年記念事業について

1. 趣旨

本校は、昭和三年の開校以来、本年をもって創立九十周年を迎えました。

つきましては、記念事業として記念式典・記念講演・記念演奏・祝賀会を下記日程のとおり開催いたします。

2. 事業内容

○ 記念式典

月 日 : 平成30年10月6日（土）
時 間 : 10:00～10:50
会 場 : 金沢市立工業高校 第1体育館

○ 記念講演

時 間 : 11:00～12:00
講 師 : 金沢美術工芸大学 美術工芸学部デザイン科視覚デザイン専攻
教授 寺井 剛敏
テーマ : 「デザインから学んだこと、伝えたいこと」

○ 記念演奏

時 間 : 12:15～12:30
演 奏 : 金沢市立工業高校 吹奏楽部
演 目 : ①百万石ぶし ②大阪俗謡による幻想曲 ③金沢プレリュード

○ 記念祝賀会（同窓会主催）

時 間 : 18:30～20:30
会 場 : 金沢東急ホテル

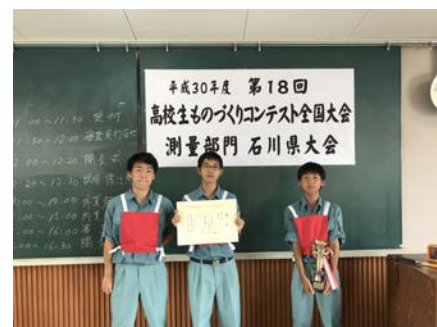
※ 国際工業高校生フォーラム

日 時 : 平成30年10月5日（金）14:30～（1時間程度）
演 題 : 「我が工業高校の取り組み」
参 加 : 全州工業高校（韓国：姉妹校提携）、金沢市立工業高校
会 場 : 金沢市立工業高校 メディアホール

金沢市立工業高等学校の活動状況について(平成30年4月～平成30年9月)

I 第18回高校生ものづくりコンテスト(全国工業高等学校長協会主催)

1. 機械系(旋盤作業部門) 石川県大会(7月 金沢市)
2. 電気系(電気工事部門) 石川県大会(8月 金沢市) 2位
北信越大会(9月1～2日 金沢市)
3. 電気系(電子回路組立部門) 石川県大会(8月 羽咋市)
4. 建設系(木材加工部門) 石川県大会(8月 羽咋市) 3位
5. 建設系(測量部門)
石川県大会(7月 羽咋市) 優勝
北信越大会(8月 黒部市)



【ものづくりコンテスト測量部門】

II 資格取得 [H30. 9. 1現在]

- ・技能検定機械加工(普通旋盤作業) 3級(8名)
- ・技能検定機械加工(フライス盤作業) 3級(3名)
- ・機械製図検定(48名)
- ・計算技術検定3級(233名)
- ・情報技術検定1級(1名)、2級(9名)、3級(11名)
- ・初級CAD検定 機械系(3名)、建築系(40名)
- ・初級CAD検定カラーコーディネーター検定(1名)
- ・ITパスポート(7名)
- ・基本情報技術者(1名)
- ・消防設備士乙4(1名)、乙7(3名)
- ・知的財産管理技能検定3級(1名)
- ・小型車両系建設機械3t未満(27名)
- ・測量士補(2名)
- ・工事担任者DD3種(3名)
- ・秘書技能検定試験2級(2名)、3級(7名)
- ・日本漢字能力検定準2級(2名)
- ・実用英語検定準2級(3名)

III 部活動

1. 文化部関係

- 吹奏楽部 ・第59回 北陸吹奏楽コンクール 銅賞
- エレクトロニクス部 ・全国ソーラーラジコンカーコンテスト2018 in 白山
(8/2～8/4 白山一里野RC) 2位・コンセプト賞

2. 運動部関係

①石川県高等学校総合体育大会(6月)

- 団体優勝: バドミントン、水球(北信越大会優勝)、新体操
- 個人優勝: バドミントン(ダブルス)、弓道(男子・女子)、新体操

②全国高等学校総合体育大会(東海総体 8月)

- 団体出場: バドミントン、水球、新体操、ボウリング
- 個人出場: 相撲、バドミントン、
弓道(男子・女子)、剣道

*水球部 優勝(3年連続)

*バドミントン

団体 ベスト8

個人ダブルス ベスト8



【水球部 高校総体優勝】

③その他の高校大会

相撲部

- 第102回全国高校相撲金沢大会(5月 金沢市) 団体3位
- 第67回全国選抜高校相撲十和田大会(8月 十和田市) 団体ベスト8
- 第60回全国選抜高校相撲宇佐大会(9月 宇佐市)

水球部

第73回国民体育大会 (9/10～13)

金沢プール 第3位

第18回アジア大会 水球競技

(8/25～9/1) インドネシアジャカルタ

宮澤拓夢(3年) 参加

銀メダル受賞



【高校相撲金沢大会】

IV その他活動

中学生体験入学: 2回実施(8月20日(月)、21日(火))

参加者: 中学校47校 延べ499名参加(男子412名・女子87名) 保護者27名参加

V 国際交流関係

韓国 全州工業高校訪問団来校 交流会 (10月5日(金) 本校グレイホール)

VI 10月以降の主な活動

1. 創立90周年記念式典(10月6日(土) 本校 体育館)
2. 学校説明会、部活動体験(10月20日(土) 本校)
3. 金工祭(10月26日(金)～27日(土))
4. 公開課題研究発表会(平成31年1月26日(土) 本校 体育館)

・吹奏楽部第52回定期演奏会(11月23日(金) 勤労感謝の日 石川県文教会館)

平成30年度夏季休業中の教職員研修について

1 実施講座数及び受講者数

今年度は、教職員の業務負担を勘案し、講座内容を精選することで、講座数及び受講者数は、以下のとおりであった。併せて8月11日（土）～19日（日）、8月23日（木）～夏季休業終了までは、研修を実施しない期間とした。

区分	平成30年度	平成29年度
講座数	60 講座	72 講座
受講者数	3,315 人	3,884 人

2 主な研修内容

(1) 授業力の向上（教科等研修）（参加者 968 人）

新学習指導要領の内容を踏まえた具体的な指導方法の理解

- ・新学習指導要領の要点である「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の理解
- ・グローバル化に対応できる英語教育の推進に向けて、中・高等学校の外国語科担当教員及び小学校の英語教育担当教員の育成

(2) 今日的な重要課題等への対応（参加者 308 人）

学校現場の今日的な重要課題に対応できる能力の向上

- ・プログラミング教育、キャリア教育、人権教育等
- ・いじめや不登校、特別な支援を必要とする児童生徒へ専門的知識及び実践力をもって対応できる中核教員の育成

(3) 特別支援教育（参加者 433 人）

特別な教育的支援を必要とする児童生徒への理解と指導方法等の習得

- ・特別支援学級及び通級指導教室担当者、特別支援教育コーディネーター等の実践力の向上
- ・児童生徒の的確な実態把握と一人一人に応じた指導方法の工夫等

(4) 金沢ミドルリーダー塾（参加者 29 人）

中核教員としてあらゆる課題に対して組織的に取り組める能力の向上と参加者同士のネットワークの構築

- ・文部科学省職員による働き方改革の講義や教育法規演習
- ・企業経営者による講話、学校組織マネジメントの講義・演習、中核教員の心構え及び役割等の講義、市教育施策等の講義
- ・リーダーシップのある中核教員としての心構えや実践力の育成

平成３０年度海外教育派遣研修について

1 目的

世界の交流拠点都市金沢の具現化に向けて、金沢市立学校の中堅教員を友好交流都市中国大連市へ派遣し、プログラミング教育やICTを活用した教育等の視察及び意見交流を通して友好を深めるとともに、国際感覚を磨き、実践的指導力の向上を図り、グローバル化に対応した人材の育成を図る。

※大連市への小・中学校の教員派遣は平成１６年度から今年度で１５回目

2 派遣先及び日程

中華人民共和国 大連市

平成３０年１０月６日（土）～１０月１０日（水）４泊５日

期 日	内 容
１０月 ６日（土）	[移 動] 金沢市→富山空港→大連市
１０月 ７日（日）	[大連市] 市内視察 (大連現代博物館、大連市内歴史的建造物等)
１０月 ８日（月）	[大連市] 市内小・中学校視察、教員との意見交流 大連教育学院訪問、職員との意見交流
１０月 ９日（火）	[大連市] 大連大学訪問、学生との意見交流 日系企業視察、企業人との意見交流
１０月１０日（水）	[移 動] 大連市→富山空港→金沢市

3 研修団員

団長 高村 政博（教育次長）

団員 橋田真由美（諸江町小学校 指導教諭）

団員 中口健太郎（南小立野小学校 教諭）

団員 松本 隆志（野田中学校 教諭）

団員 加藤 則網（港中学校 教諭）

団員 村本 和代（教育プラザ研修相談センター 指導主事）

4 研修の報告

下記の会議・研修会等において実践報告を行う。

- ・第６回定例市教委・校長会議 １１月２０日
- ・第２回教務主任等連絡協議会 １１月２８日
- ・初任者研修 １１月２９日
- ・中堅教諭等資質向上研修 １２月２７日
- ・団員所属校校内研修会 １２月～１月

金沢市指定文化財の指定について

1. 有形文化財 建造物「旧^{なか}中や」
2. 有形文化財 古文書「宇多須^{うたす}神社^{じんじや}文書^{もんじよ}」
3. 有形文化財 歴史資料「宇多須^{うたす}神社^{じんじや}関係資料」

旧中や

- 1 種 別 有形文化財建造物
- 2 名 称 旧中や
- 3 員 数 1 棟
- 4 所 在 地 金沢市東山 1 丁目 410 番
(住居表示：東山 1 丁目 13 番 7 号)
- 5 所 有 者 しま やすたけ 島 康剛 金沢市鳴和台 89 番地 2
- 6 構造形式 木造 2 階建 (一部 3 階建)、切妻造平入、棧瓦葺
- 7 規 模 建築面積 64.10 m²
- 8 建築年代 文政 3 年 (1820)
- 9 説 明

旧中やは、ひがし茶屋街^(注1)の旧愛宕三番丁の通りに沿って北面して建つ茶屋建築である。建築年代は茶屋町創立期の文政3年(1820)と推定され、その頃の絵図である「浅野川茶屋町創立之図」には「中や」の屋号が書かれており、慶応3年(1867)には「越か祢」、明治中期には「しおや」、昭和前期には「玉ひさ」と、創立期から昭和50年代までお茶屋として営まれてきた建物であり^(注2)、現在は公開施設として活用されている。

建物は、木造2階建、切妻造平入、棧瓦葺^(注3)とし、間口3間、奥行10間の規模で中庭を配して敷地いっぱい建つ。もう1枚存在する茶屋町創立期の絵図^(注4)には、各お茶屋の間口間数が記されており、二番丁の通りは間口5間、三番丁の通りは間口3間、一番丁の通りは長屋建てのお茶屋が最も多く、通りによって建物の規模や造りが異なることが分かる。旧中やは、間口3間で、茶屋町創立当初の三番丁の通りに建つお茶屋の典型的な規模を示し、敷地後方には、茶屋町創立以前の町割の名残として地区を斜めに縦断する旧八幡川が通り、地区の背割排水の溝^(注5)と旧八幡川との取付きが確認でき、創立当初の町割の特徴を顕著に表す。

外観は、1階正面向かって右手を大戸の玄関とし、左手は出格子で、腰石には^{しゃくだにいし}笏谷石を用い、格子は割りの細かなキムスコ^(注6)を設ける。格子の上部には出の短い瓦葺の庇を通し、押縁下見板の小壁を立ち上げ、背の高い2階正面は東側を戸袋とした掃き出しの雨戸を5枚並べ、上部に板葺きの庇を設け、大屋根を架ける。

内部は1階を一例四段型の間取りとし、大戸を開いた1間四方の玄関の奥に内玄関を設け、1間幅の板敷きの廊下を通し、後方に石室や井戸のある台所と納戸を設ける^(注7)。正面向かって左手2間は、4畳のみせの間、茶の間、三畳の間、6畳の奥の間を並べ、奥の間の南側に土縁を介して中庭を配し、土縁は中庭に沿って矩手に折れて、旧便所や旧納屋^(注8)に続く。階段を茶の間と納戸に設け、接客の動線を確保するが、どちらも後世の改造で、茶の間の階段は、明治23年(1890)に改正された貸座敷に関する規則^(注9)に伴い、幅の広い勾配の緩やかなものに改められたことが考えられ、もとの幅の狭い急勾配の階段の痕跡が同位置に残る。

2階の間取りは、正面に縁側を張り出し、8畳の前2階と4畳の控えの間を並べ、奥になかのまと茶の間からの階段が取り付く踊り場を並べ、その奥に10畳のひろまを続け、縁側と廊下を介して5畳のはなれと3畳の次の間を配す。前2階は東向きに奥行の浅い床を設け、床の間の脇壁に墨蹟窓^{ぼくせきまど}※1を設ける^(注10)。ひろまは西向きの床の間で、幅1間強の畳床に明かり障子の平書院^{へいしょいん}※2を付け、床柱は磨き丸太を用い、狝潜り^{ちんくぐ}※3を穿ち、地板のみを敷いた飾りを設けない床脇とする。5畳のはなれと3畳の次の間は近代以降の増築で、はなれは北向きの床とするが、床の脇が次の間への動線となるため、釣床^{つりど}※4形式としながらも踏込地板^{ふみこ}※5を敷き、その上に小さめの板床を設けて格式を高め、かつ全体としては数寄屋造りの意匠でまとめた軽快さが見られ、次の間は網代天井とするなど、近代和風建築として見応えのある造りとする。また前2階と控えの間、ひろまの壁は弁柄壁で、はなれの壁は群青壁とし^(注11)、各時代に造られた座敷がお茶屋特有の粋な空間を演出している。

なかのまの東側を吹抜とし、吹抜南側の階段から3階のアマに上がる。屋根はかつて石置板葺屋根であったが、昭和初期に瓦葺に改めたとされ、その際に3階部分を増築しており、3階では緩やかな屋根勾配の旧屋根垂木が残る。

茶屋建築は、藩政期の一般的な町家建築と異なり、2階正面側に座敷を設けることで2階正面の背が高くなり、雨戸を並べるお茶屋独特の建築様式に発達するが、旧中やにおいてもその典型的な様式が見られる。また茶屋町は天保3年(1832)に一度廃止となり、慶応3年(1867)に再公許されるが、弘化3年(1846)に

お茶屋独特の造りを一般の町家の造りに改めることが命じられており、旧中やには、それを示唆する痕跡が前2階と控えの間の正面柱に見られる^(注12)。同様の痕跡は茶屋町創立当初に建築された重要文化財「志摩」にも見られ、旧中やが茶屋町創立当初の建築であることを示している。

旧中やは、茶屋町創立当初に建築された茶屋建築であり、その規模が三番丁の通りの典型を示すなど、茶屋町創立期の町割の特性を色濃く表している。また外観のみならず、内部空間が極めて良好な状態に保存されており、建築当初の姿を推測させる痕跡が数多く残るとともに、茶屋町創立当初から現在に至るまでの時代の様相に合わせた建物の変化が確認でき、ひがし茶屋街の歴史を物語る建物として貴重である。

■ 注記

(注1) ひがし茶屋街は、文政3年(1820)、藩からの公許によって創立された茶屋町であり、それ以前とは全く異なる町割によって区画整理され、開設された。当時は「浅野川茶屋町」、「卯辰茶屋町」と呼ばれ、明治期以降は「東新地」、「ひがし」と呼ばれてきた。現在も数軒のお茶屋が営まれている現役の茶屋町であり、重要伝統的建造物群保存地区として、歴史的な町並み保存が図られている。旧中やは、同地区における伝統的建造物に特定されている。

(注2) 「越か祢」の屋号は、慶応3年の「東新地細見のれん鏡」(金沢市立玉川図書館所蔵)から推測されるもので、「ゑ津又」もしくは「嶋屋」の可能性も考えられる。昭和50年に発行された「旧東のくるわ」の調査資料の中に、各建物の履歴を調べた資料が残り、「しおや」や「玉ひさ」の屋号は、調査当時の所有者への聞き取り調査による。

(注3) 平成14年度の修理工事で屋根瓦の葺替が行われている。

(注4) 「旧東のくるわ」では、創立期の絵図として「浅野川茶屋町創立之図」(石川県立図書館所蔵)のほかに、「文政三年庚辰初冬徒町御會所御渡之圖」(個人所蔵)が確認され、その絵図には間口間数が記されており、二番丁の通りには最大で間口7間規模のお茶屋が見られ、三番丁の通りには最大5間規模のお茶屋が確認できる。

(注5) 二番丁の通りと三番丁の通りの敷地の背割には排水溝が設けられており、旧中やの位置する区画では、三番丁の通りの東側のお茶屋は敷地奥行が9間であり、西側の旧中やとその両隣の敷地奥行は10間となるため、旧中やにおいては正面から奥行9間の位置に排水溝が敷設されている。また、旧八幡川と地区の背割排水溝は、伝統的建造物群保存地区における環境物件に特定されている。

(注6) キムスコの下半分には冬期の積雪から格子を保護するための掛け戸が設

けられ、金沢の町家らしい装置が見られる。

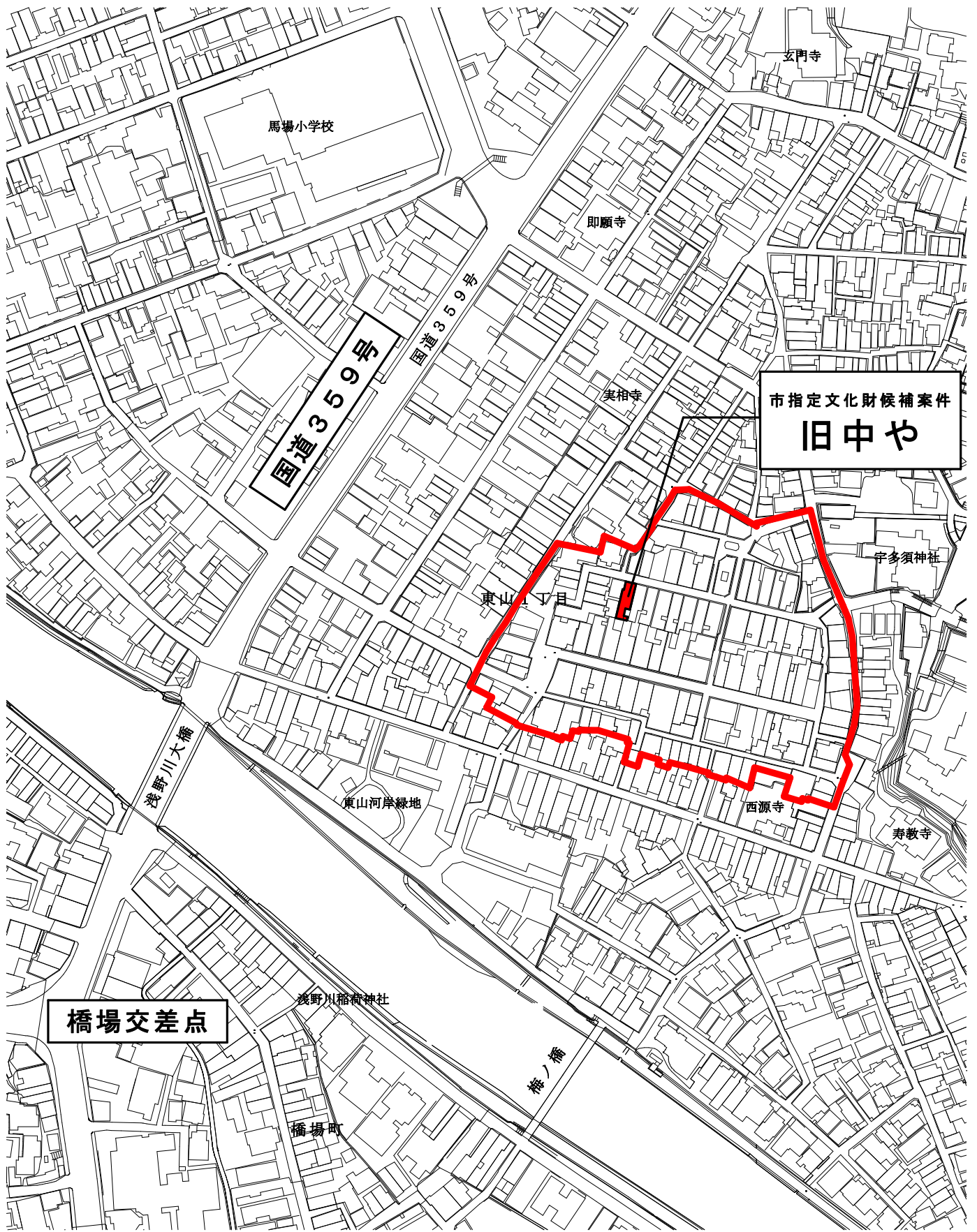
- (注7) 井戸には木製の手押し装置を備えたポンプが残り、昭和39年頃までは使用されていた。
- (注8) 平成20年に公開施設とする際に旧便所を取り払い、旧納屋に洋式便所を整備している。
- (注9) 明治6年(1873)に、お茶屋は貸座敷として営業することとなり、「芸娼妓、貸座敷営業者に対する仮規」によって規制された。この仮規は明治9年7月「貸座敷仮規則」に替わり、同12年に正式の規則が制定された。明治15年、同20年、同23年と改正され、その後もしばしば改正された。明治23年の改正規則では「客室十八坪以上アルモノハ格子二個以上ヲ設クヘシ 格子ノ巾ハ三尺以上タルヘシ」とある。
- (注10) 前2階と控えの間に長押の痕跡があり、正面側の2本の面皮柱は後の改造によるもので、床脇壁の下地窓はその時に設けられているが、床は当初のものである。改造時期は不明である。
- (注11) 平成15年度の修理工事によって、内部の壁は既存の壁の仕様を踏襲して塗り替えられた。
- (注12) 両柱には同じ高さに2箇所ずつの埋木があり、建物2階正面に腕木を出して出格子を設けていたことを推測させる。弘化3年の命により既存の茶屋建築を一般の町家の意匠に似せたことが考えられるが、建築当初の形式であった可能性も考えられる。また、正面柱には風蝕が見られないことから、出格子であった可能性が高く、かつ、その状態は短期間であったことが考えられる。一方で、明治21年10月に発行された「石川県下商工便覧」に出格子のお茶屋を確認できることから、出格子の形式を長期間維持していた建物もあったことが推測される。


■参考文献

- ・金沢市文化財紀要6「旧東のくるわ 伝統的建造物群保存地区保存対策事業報告書」／昭和50年3月発行／発行者：金沢市教育委員会

用語の説明

- ※1 墨蹟窓：床の間の脇壁に設ける採光のための下地窓。
- ※2 平書院：出書院のような棚板などがなく、窓のみを付けた形式の書院。
- ※3 狝潜り：床の間と床脇との仕切りの下にある開口部。
- ※4 釣床：床柱・床框・床板がなく、天井から釣束を下げ、落掛を付けて小壁を設けた床。
- ※5 踏込地板：座敷の畳と同じ高さに敷く床板。

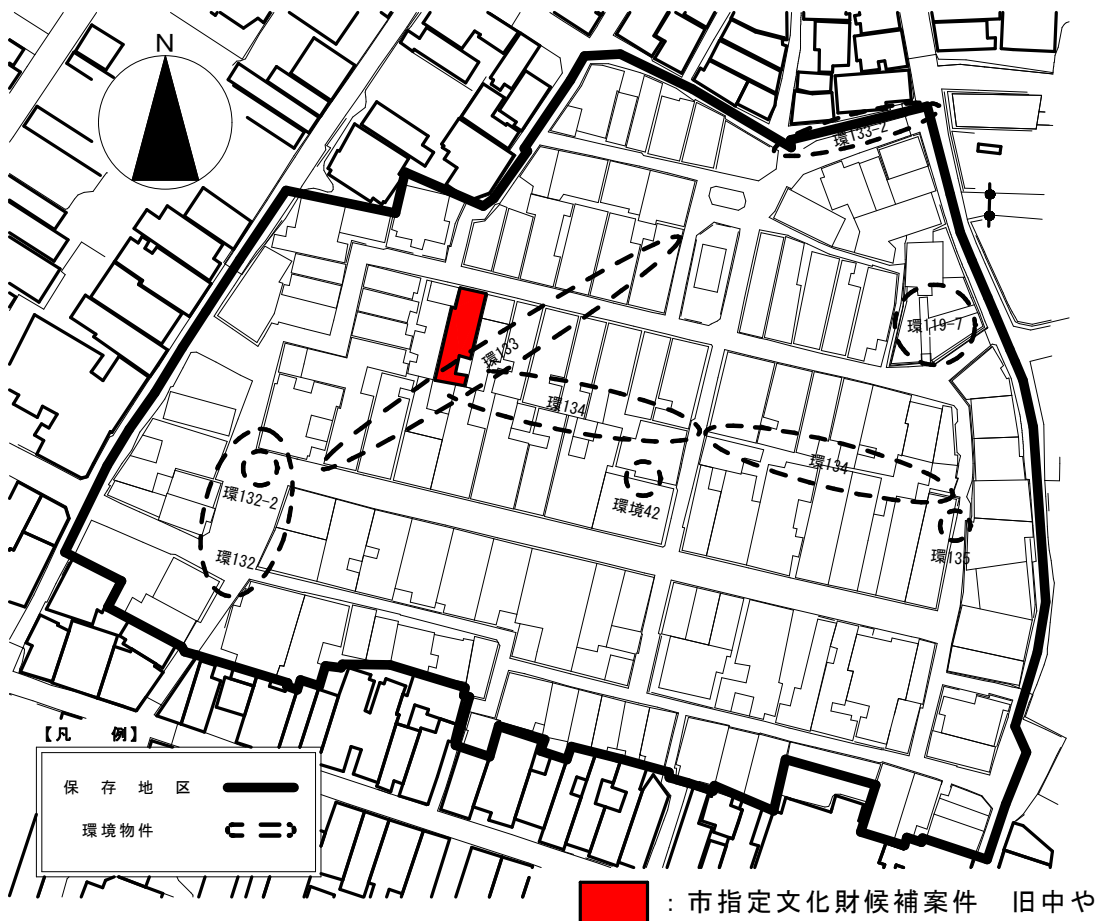


 東山ひがし伝統的建造物群保存地区

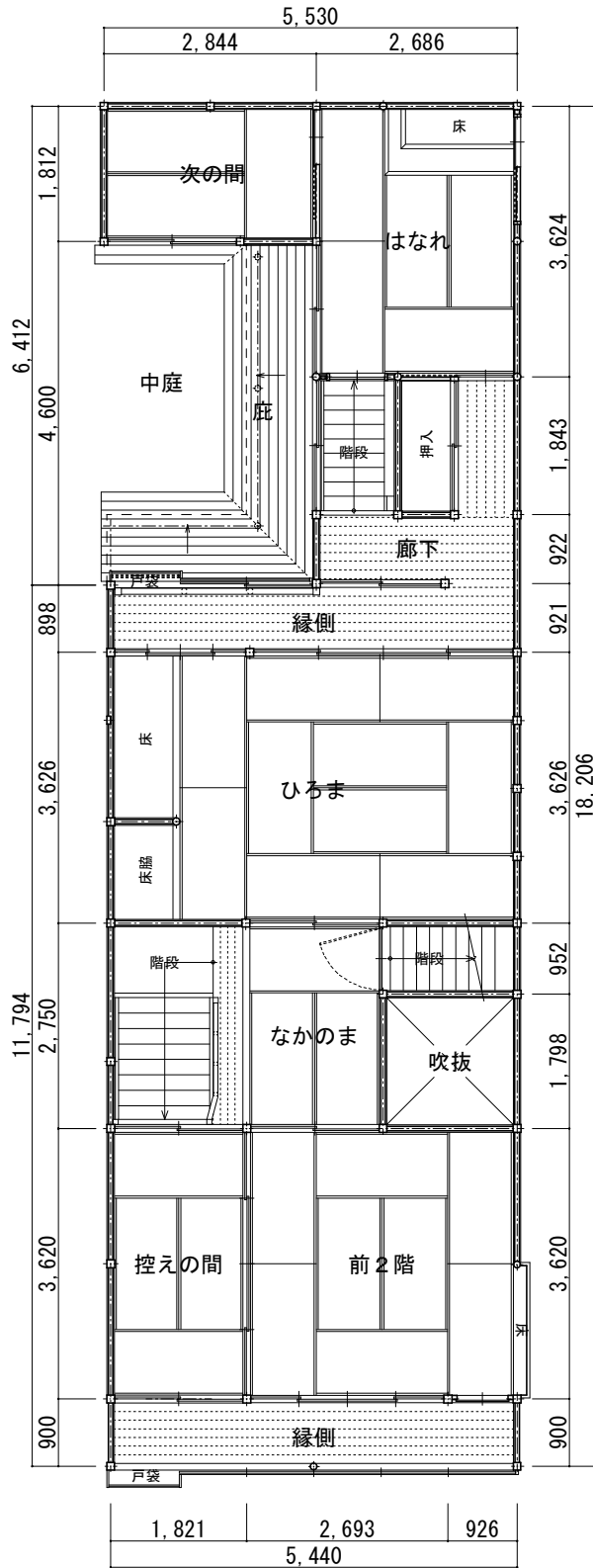
位置図



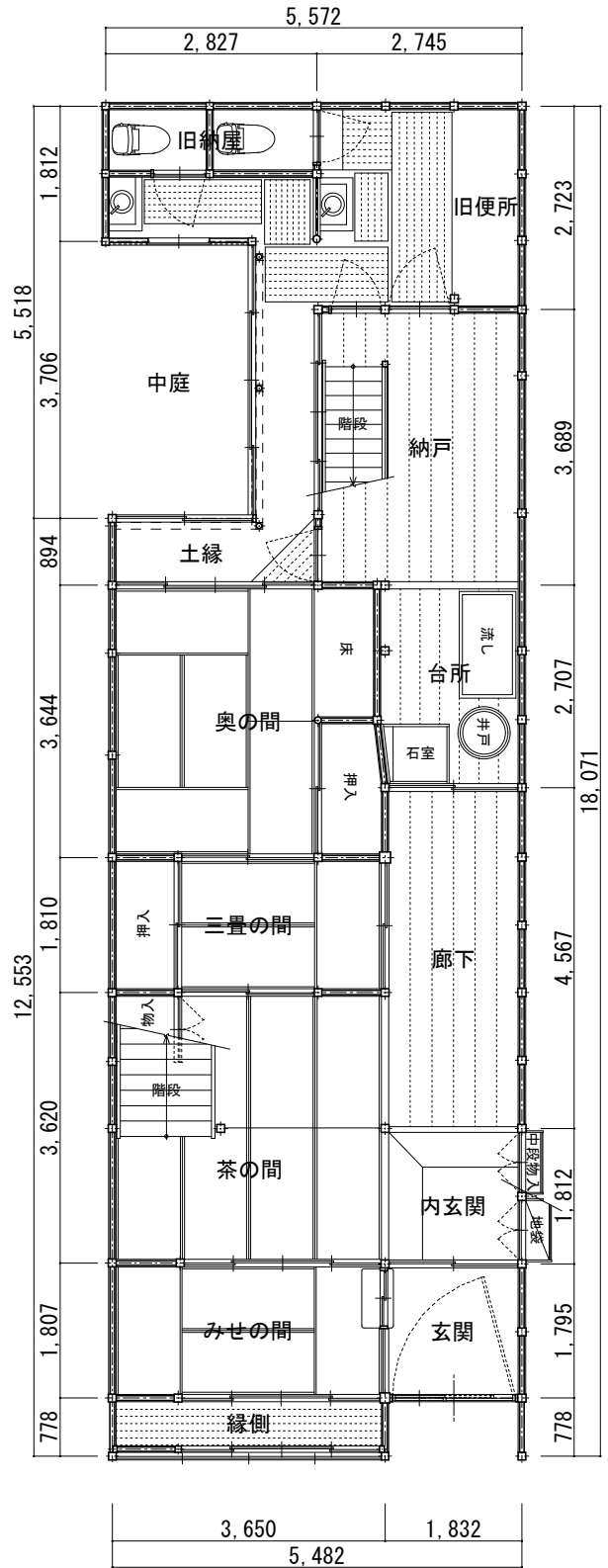
保存地区内の伝統的建造物



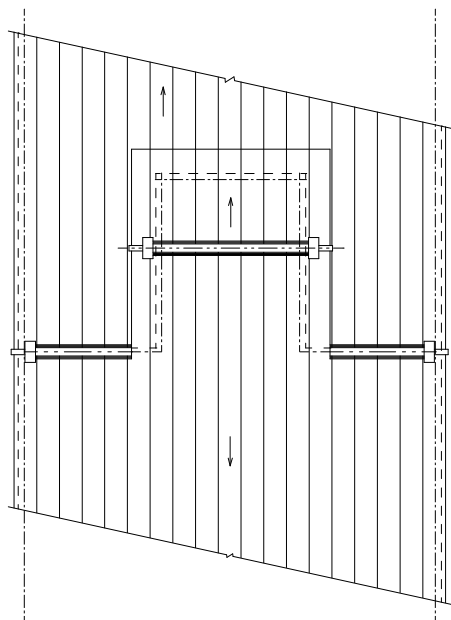
保存地区内の環境物件



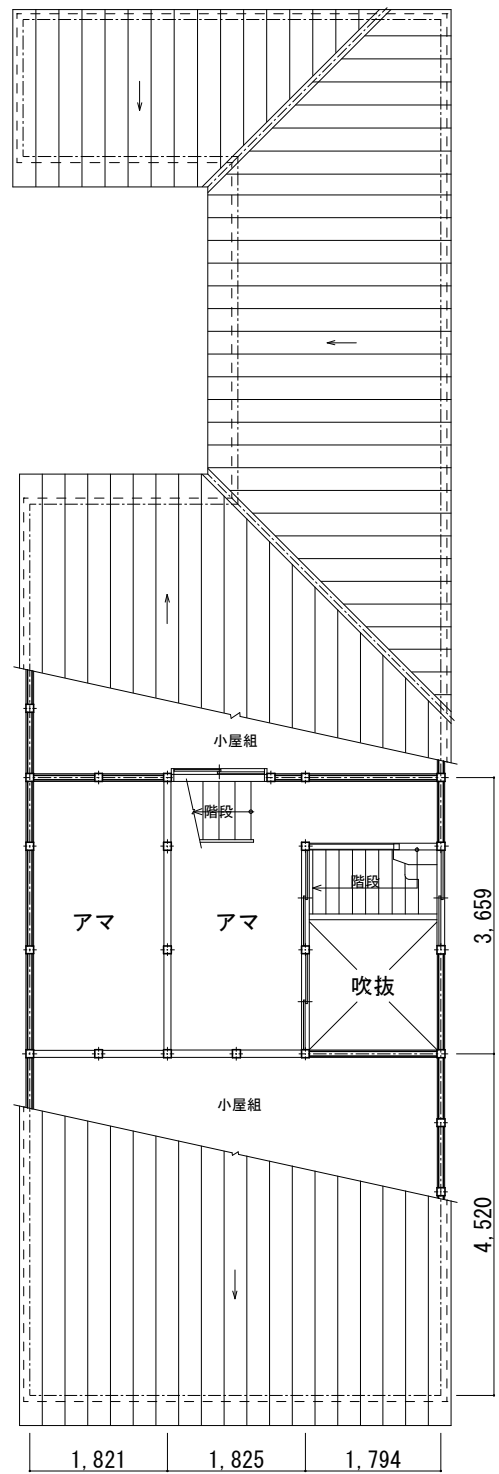
2階平面図 1/100



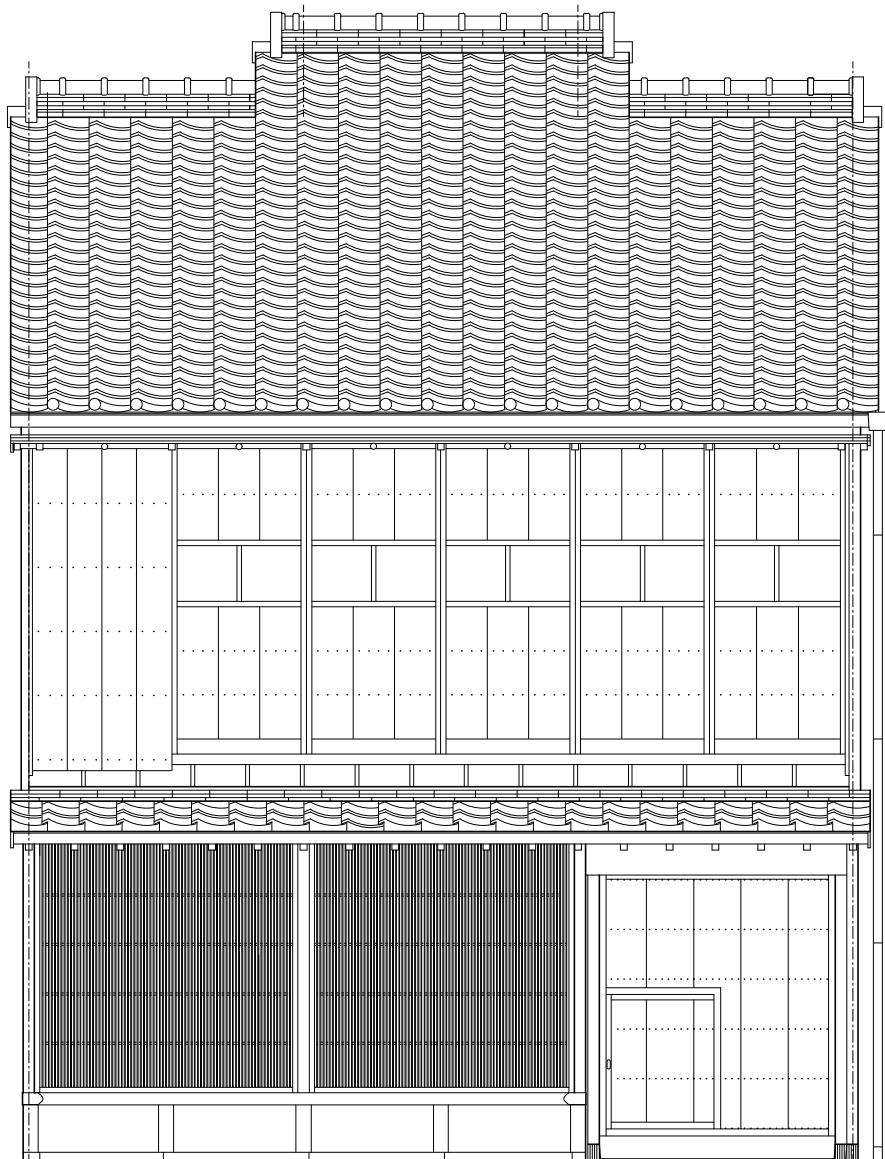
1階平面図 1/100



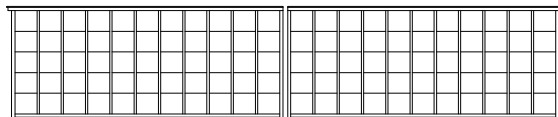
屋根伏図 1/100



3階平面図及び屋根伏図 1/100



北側立面图 1 / 5 0



掛け戸立面图 1 / 5 0



外観正面



1階 玄関から廊下



1階 台所



1階 納戸階段



1階 茶の間 階段



2階 なかのま



2階 前2階



2階 控えの間



2階 ひろま



2階 はなれ



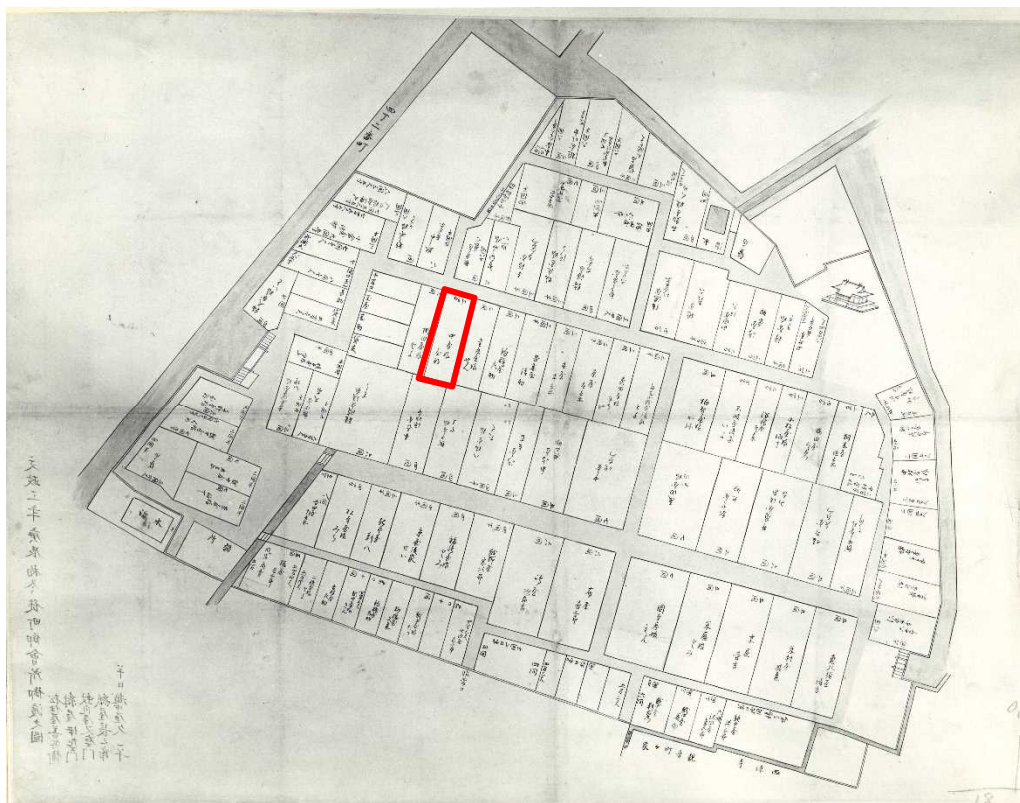
吹抜



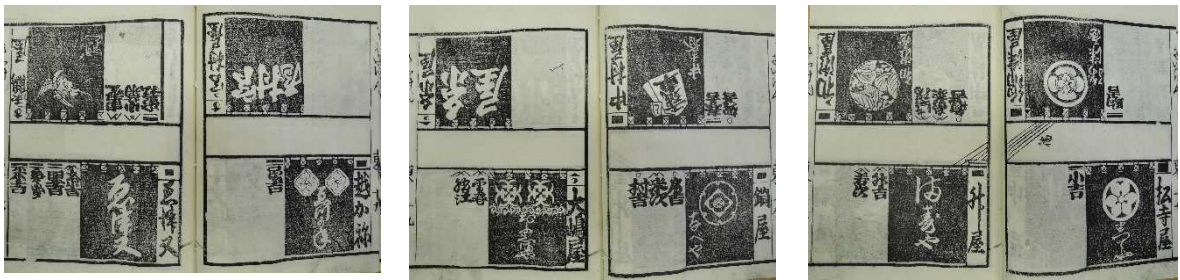
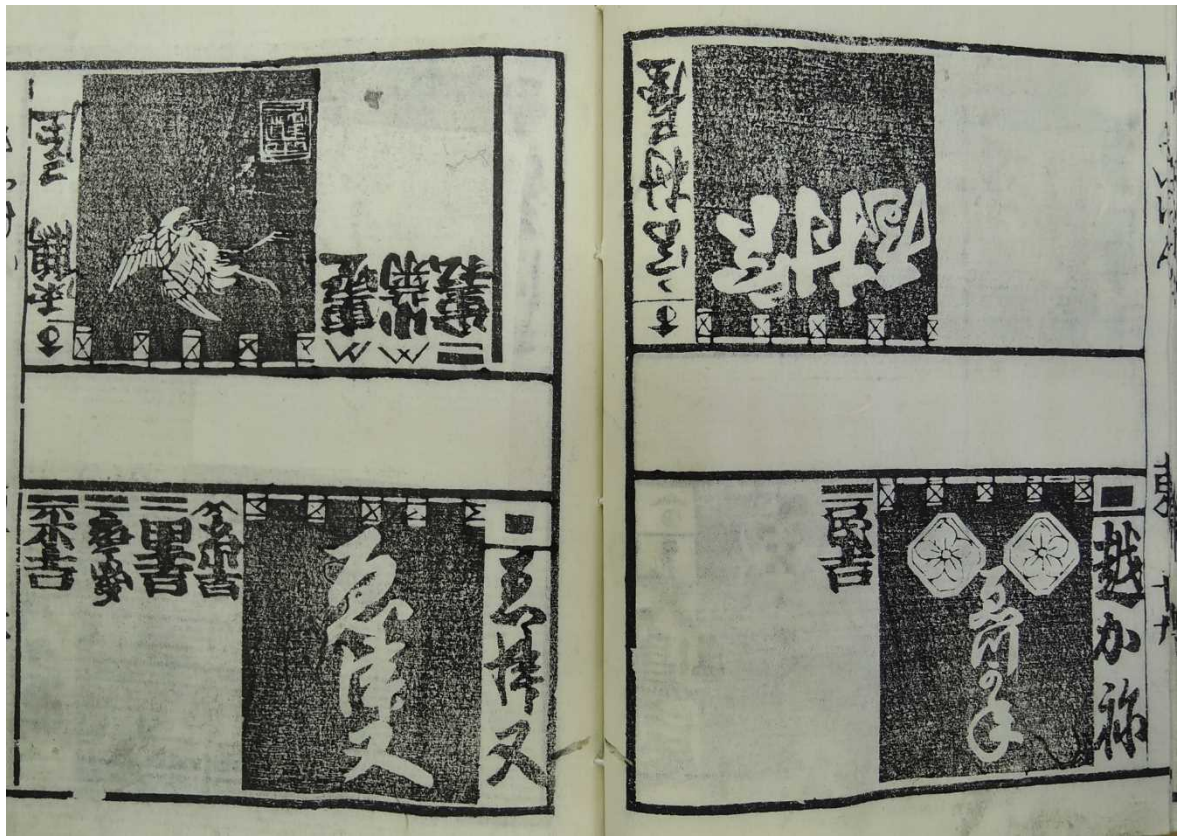
3階 アマ



浅野川茶屋町創立之図（文政3年／1820 石川県立図書館所蔵）



文政三年庚辰初冬徒町御会所御渡之図
（文政3年／1820 個人所蔵）



東新地細見のれん鏡
 (慶応3年／1867 金沢市立玉川図書館所蔵)

東新地細見のれん鏡には、慶応3年時のお茶屋の屋号とのれんが描かれている。その描き方は、中央横に伸びる余白が通りを表し、両側のお茶屋を二番丁、三番丁、一番丁の通りの順番で並べる。三番丁の通りには旧八幡川を渡る橋が描かれており、そこから順に追うと「旧中や」は「越か祢」の屋号であったことが分かる。



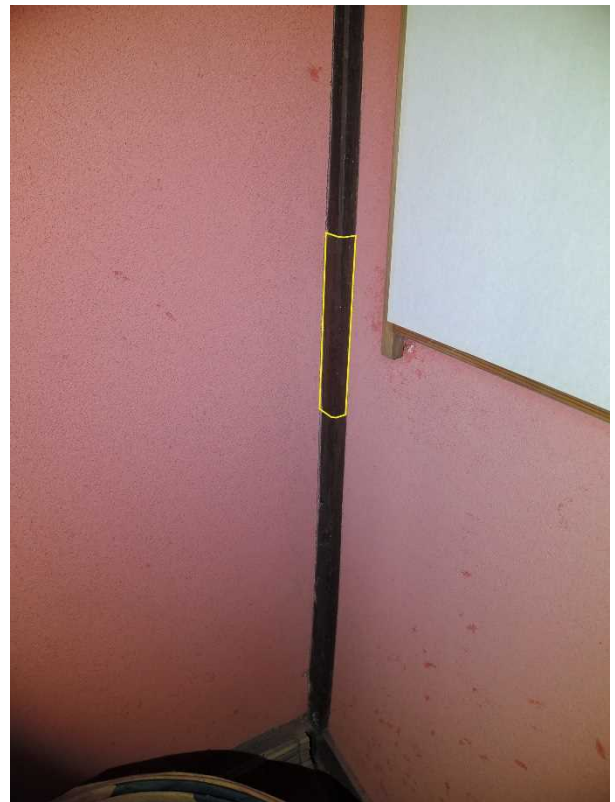
旧階段痕跡（黄色囲み部分）



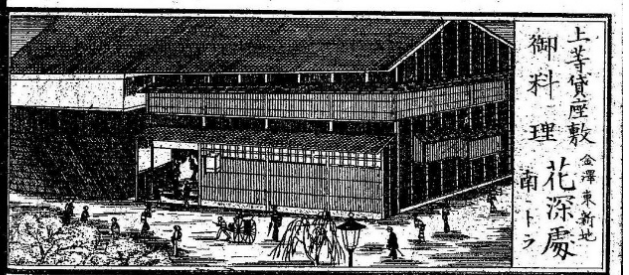
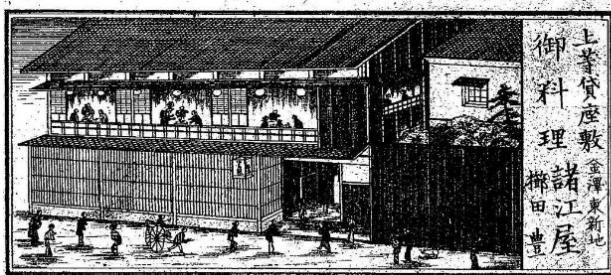
旧屋根垂木



正面柱痕跡（黄色囲み部分）



重要文化財志摩 正面柱痕跡
（黄色囲み部分）



石川県下商工便覧／明治 21 年 10 月発行

宇多須神社文書

- 1 種 別 有形文化財 古文書
- 2 名 称 宇多須神社文書
- 3 員 数 文書類384点
- 4 所 在 地 金沢市東山1丁目30番8号
- 5 所 有 者 宗教法人 宇多須神社
- 6 年 代 織豊時代から明治時代（江戸時代が中心）
- 7 指定理由

宇多須神社は、浅野川のほとりの小丘から出た古鏡の裏面に卯と辰の文様があったことから卯辰神と称して、養老2年（718）に多聞天社として創建されたのを始まりとする。慶長4年（1599）に、2代藩主前田利長が、金沢城の鬼門の方角である現在地に卯辰八幡宮を建立した。祭神は越中国守山に在城していた時に信仰していた海老坂えびさか（富山県高岡市）の物部八幡宮ものべはちまんぐうと、阿尾城あおじょう（富山県氷見市）鎮守の榊葉神明宮さかきばしんめいぐうの神霊を祀ったもので、同時に藩祖利家の神霊も密かに祀り、代々藩主の祈祷所として崇敬を集めた。明治2年（1869）には高皇産霊社たかみむすびしゃと改め、同5年に卯辰社と改称した。同6年には旧金谷御殿の跡地に創建された尾山神社に利家の神霊を遷座した。そして、同33年に宇多須神社と改称し、同35年には県社に昇格している。

加賀藩の神社統制は、寺社奉行を頂点に、加賀・能登・越中ごとにくつつかの組に編成され、触頭ふれがしらと呼ばれる神職が寺社奉行のお触れを配下寺社へ伝達するという仕組みをとっていた。卯辰八幡宮の神主である厚見氏は、慶安元年（1648）には触頭として、白山社人を除く石川・河北郡の神職を支配していたことが分かっている^(注1)。そして、承応3年（1654）4月に、藩命で神主組合が組織されると、卯辰八幡宮の厚見氏は野町神明宮（神明宮）の多田氏、春日社（小坂神社）の高井氏と同じ組になり、触下の神社を統制した^(注2)。しかし、厚見氏は触頭の中でも格別の位置にあったことは、寛文2年（1662）10月6日の寺社奉行達に、直触の白山・黒津船・寺中・春日・野町神明の5箇所を除いた「加州宮々神主」を、「一所組下」に置くように命じたことからもうかがえる。

本神社が所有する文書類384点のうち242点については、平成8年から11年にかけて文化庁文化財保存事業費の補助金を受けて金沢市教育委員会によって調査された『加賀藩寺社触頭文書調査報告書』に、「宇多須神社文書」として目録がまとまっている。これらは江戸初期のものから

現存するが、ごく初期のものは写しが多く、原本では寛永頃の正月22日付宇多寸〔ママ〕神主紀伊守充奥村撰津守折紙が最も古い。藩主前田家からの祈祷依頼状、寺社奉行からの達の類がよく残り、とりわけ境内地や野町神明社における町方の相撲・曲芸・からくり・浄瑠璃などの興行を許可した達の多さは、城下町金沢の祭礼の賑わいを彷彿とさせる。また、「星祭」の名で執行されてきた神事が、王政復古によって「名越祓」と改称されたことなども知られる。

目録に収録されていない142点の文書の中では、文禄3年（1594）7月17日の豊臣金直従五位下備前守口宣案が最も古く、このほかにも叙任に関する宣旨（※¹）や口宣案（※²）の類が多く残る。また、3代藩主利常や大聖寺藩祖利治からの祈祷に関する礼状や、厚見氏を触頭に任じる申付状など、藩との関わりを示す文書も多く、いずれも重要なものとなっている。

宇多須神社文書は、当社と藩主前田家とのつながりを示し、藩政時代の加賀藩の寺社統制のあり方を知るうえでも極めて高い価値を有するものである。

■注記

（注1）慶安元年12月1日

（森田柿園著『国事雑抄』巻1、金沢市立玉川図書館蔵）

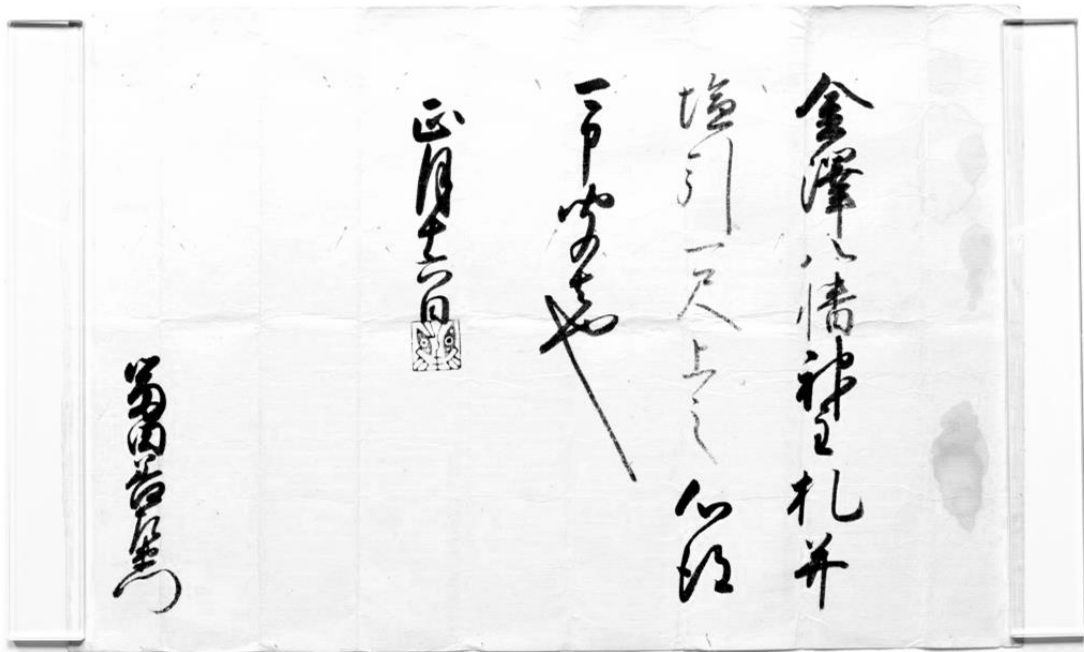
（注2）承応3年4月25日

（森田柿園著『国事雑抄』巻1、金沢市立玉川図書館蔵）

■用語の解説

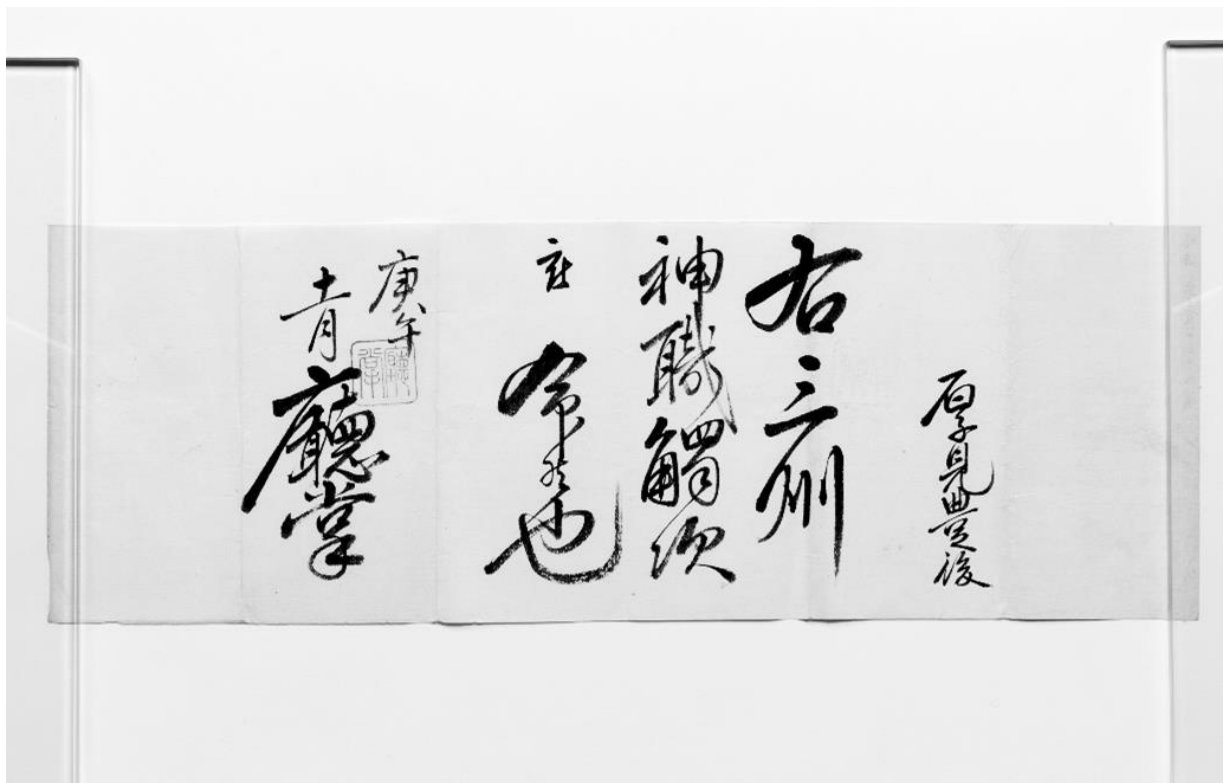
（※1）宣旨：天皇の命令を伝える公文書。

（※2）口宣案：天皇の勅旨を口頭で受けた蔵人頭（天皇の側近）がその内容を文書化したもので、非公式な文書形式。



「前田利常印判状（金沢八幡神主札并塩引一尺之儀）」

金沢八幡宮の神主が祈祷のお礼と塩を送ってくれたことに対するの礼状



「三州神職觸次申付状」

厚見豊後を触頭に任命する内容。

宇多須神社文書 目録

NO	文書標題	年代	形態翻訳	墨付点数	差出者	受取者	備考	(収納袋番号)
1	豊臣金直従五位下備前守口宣案	文禄3年7月17日	堅紙	1	藏人右少弁藤原経遠	豊臣金直	従五位下口宣案	1
2	豊臣金直従五位下備前守口宣案	文禄3年7月17日	堅紙	1	藏人右少弁藤原経遠	豊臣金直	備前守口宣案	2
3	八幡の社建立に付書状	3月18日(〔付箋〕慶長4年)		1	よこやましろ(判)	おつほね(御局)	額入り	3
4	大納言ヨリ肥前守へ遺言状写	慶長4年3月22日	切続紙	1	筑前利家	羽柴肥前利長		4
5	前田利家印判状写	7月21日	切紙	1	利家御印	正院川はた・其外百姓中		5
6	本多安房守書状	9月17日	一紙	1	(本多安房守)政長(判)	小(幡)宮内		6
7	紀伊守代午前様御懐胎安産御祈念ノ儀ニ付書状	元和6年閏12月8日	一紙	1				7
8	紀伊守代午前様御懐胎安産御祈念ノ儀ニ付書状	元和7年7月27日(写し)	一紙	1				8
9	西川之神明神主孫左衛門相煩申ニ付達書	(寛永8年以前カ)正月22日	折紙	1	奥村撰津守藤内	宇多寸神主紀伊守		9
10	禁制写	寛永10年8月	一紙	1	横山山城守・本多安房守	八幡宮		10
11	犬千代様御痘瘡御快喜ニ付達書写	(寛永15)3月14日	折紙	1	今枝民部	左京		11
12	犬千代様御痘瘡御平癒ノ儀ニ付返書写	(寛永15カ)3月15日	折紙	1	津田内蔵助・横山右近・奥村因幡守	八幡宮神主左京		12
13	犬千代様御痘瘡御平癒ノ儀ニ付返書写	(寛永15カ)3月15日	折紙	1	津田内蔵助・横山右近・奥村因幡守	八幡宮神主左京		13
14	中納言様御祈禱御礼ノ儀ニ付達書	(寛永カ)7月	切紙	1	神尾主殿助	金沢八幡神社神主紀伊守		14
15	覚(御祈禱備物ニ付)	(正保カ)7月23日	折紙	1	杉江兵助・由比五郎左エ門・吉田逸角(正保)・窪田九郎兵衛	八幡宮神主厚見紀伊守		15
16	諸事留牒	慶安元歳	袋綴	96				16
17	御家中ノ面々一統最花銭進納ニ付加賀藩寺社奉行達書	慶安4年9月4日	切紙	1	岡嶋一郎兵衛・葛巻藏人	八幡左京		17
18	前田利常印判状(金沢八幡神主札并塩引一尺之儀)	正月16日	一紙	1	利常	富田善左衛門		18
19	前田利常・利次各判物写 金沢八幡神主紀伊守祈禱札并くねも一折持参ノ旨	12月2日	一紙	1	淡路利次	八幡神主紀伊守		19
20	前田利常・利次各判物写 精誠執行札并看一種到来ノ旨	12月11日	一紙	1	淡路利次	八幡神主紀伊守		20
21	源祐正従六位上紀伊守口宣案	明暦2年7月4日	堅紙	1	藏人头左中弁藤原資熙	源祐正	従六位下口宣案	21
22	源祐正従六位上紀伊守口宣案	明暦2年7月4日	堅紙	1	藏人头左中弁藤原資熙	源祐正	紀伊守口宣案	22
23	神道護摩伝受に付祈禱卷数禁裏進上書状	明暦2年7月27日	一紙	1	中御門頭弁内山本八郎左衛門	卯辰八幡宮社司厚見紀伊守	包紙「人皇百十二代後西院天皇御宇明暦二年七月中御門頭弁殿ヲ以御卷数献上」	23
24	前田利常印判状(金沢八幡神主札并久年母一折持参之儀)	(慶安元～明暦3年)12月2日		1	利常	富田 善左衛門		24
25	前田利常印判状(金沢八幡神主札并鯉節一折持参之儀)	(慶長10年～万治元年)8月24日		1	利常	富田 善左衛門		25
26	前田利治書状(祈禱札差越之儀)	(寛永16年～万治3年)9月28日		1	飛驒守 利 (前田 利治)	八幡神主 左京		26

NO	文書標題	年代	形態翻訳	墨付点数	差出者	受取者	備考	(収納袋番号)
27	能州珠洲郡三崎金分高倉宮社領社堂修理別当高勝寺神主大宮兩人支配分割封之覚写	寛文元年6月27日	切続紙	1	横山式部・笹原織部	能州三崎金分高倉宮別当高勝寺神主大宮		27
28	恒例神事参勤時風折烏帽子狩衣着用に付神道裁許状	寛文7年10月朔日	堅紙	1	神祇管領長上侍従卜部兼連	厚見紀伊守祐賢		28
29	前豊後守代・当地八幡祭礼ニ付達書写	寛文7～9年頃	折紙	0				29
30	当地八幡神事祭礼ノ儀ニ付達書写	(年未詳)	折紙	1	葛巻藏人・茨木右衛門	高岡稻荷神主豊後		30
31	当地八幡宮御祈祷ノ祭礼ノ儀ニ付御達書	9月11日	折紙	1	笹原織部・永倉左京	伊豆守		31
32	貞觀年中越中守山江御鎮座八百歳神事執行願ニ付加賀藩寺社奉行申渡状	(寛文10カ)庚戌7月11日	切続紙	1	伊藤内膳・成瀬内匠・生駒右近	卯辰八幡神主紀伊		32
33	為御祈祷左京方百日籠之儀ニ付返書	10月5日	折紙	1	今枝民部	八幡神主紀伊守		33
34	前田利次書状(札守・看到来ニ付)	12月11日	切紙	1	淡路利次	八幡社人播磨		34
35	四組木綿手纏之事裁許状	寛文11年8月16日	堅紙	1	侍従卜部兼連	厚見伊勢守源祐賢		35
36	神事参勤風折烏帽子狩衣着用に付神道裁許状	延宝4年4月13日	一紙	1	侍従卜部兼連	厚見撰津守祐章		36
37	源祐章正六位下撰津守叙任口宣案	天和3年5月24日	堅紙	1	藏人左中弁兼中宮大進藤原俊方	源祐章	正六位下口宣案	37
38	源祐章正六位下撰津守叙任口宣案	天和3年5月24日	堅紙	1	藏人左中弁兼中宮大進藤原俊方	源祐章	撰津守口宣案	38
39	当社由来御尋ニ付申上書	貞享2年5月17日	切紙	1	能州三崎金分高座神主大宮	不破彦三・富田治郎左衛門		39
40	卯辰山毘沙門堂そはニ付百姓共与出入之書付写	元禄9年	袋綴	24	神主厚見撰津守			40
41	先例神事参勤風折烏帽子紗狩衣着用に付神道裁許状	宝永3丙戌 7月17日	堅紙	1	神祇管領長上従二位侍従卜部兼敬	厚見撰津守祐命		41
42	先例神事参勤風折烏帽子狩衣着用に付神道裁許状	正徳元年7月4日	堅紙	1	神祇管領長上従二位侍従卜部為敬	厚見紀伊守祐順		42
43	二之丸御屋形御煤払ニ付御礼共御納ノ儀達書	(正徳4以前カ)12月16日	切紙	1	和田小右衛門	八幡神社厚見紀伊		43
44	家来相本長右衛門賀養子儀芳春院様百四御忌御法事為赦出牢申付ニ付達書	(享保元カ)丙申7月23日	切紙	1	伊藤内膳・永原左京・京都御役菊池大学	卯辰八幡神主厚見紀伊		44
45	微妙公之文書御夜話(山本源左衛門覚書)	享保9年正月	袋綴	7				45
46	卯辰多門天産子地願書付萬留帳	享保17年10月29日	袋綴	3	卯辰多門天神主厚見紀伊守			46
47	兼帯小坂村春日社千年祭執行願ニ付加賀藩寺社奉行申渡状	(享保18)年2月11日	切紙	1	伊藤内膳・成瀬弾正・本多主水	卯辰八幡神主紀伊守		47
48	社頭造営慶賀神事執行願に付許可申渡状	(元文3)戊午4月17日	切続紙	1	伊藤内膳(印)・本多主水(印)・山崎庄兵衛(印)	卯辰八幡神主紀伊	伊藤・本多・山崎は寺社奉行	48
49	御供米永大献上証文	元文4年8月11日	一紙	1	菊池市左衛門(判)	厚見紀伊守		49
50	風折烏帽子紗狩衣着用に付神道裁許状	寛保元年9月11日	堅紙	1	神祇管領長上正三位大侍従卜部兼雄	厚見備前守祐忠		50
51	小坂郷卯辰村多聞天縁起	延享3年9月25日	袋綴	5	神主源祐順			51
52	源祐順従五位下豊後守叙任口宣案	寛延元年10月23日	堅紙	2	藏人左少弁藤原説道	源祐順	包紙有り 祐順6代	52

NO	文書標題	年代	形態翻訳	墨付点数	差出者	受取者	備考	(収納袋番号)
53	覚(卯辰八幡社地内少彦名神社両迂宮為御入用被下候御目録)	宝暦5年	切紙	1	寺社御奉行御用番前田主殿助			53
54	社号改之儀ニ付加賀藩寺社奉行達書	(宝暦10~11の間カ)11月15日	切続紙	1	永原求馬・大音七左衛門・伴八矢	厚見美濃守		54
55	高座宮御本社大破ニ付仮殿遷宮被仰付候処修理材木ノ儀ニ付願書	宝暦12年12月	切続紙	1	能州三崎大宮副	大音七左衛門・永原求馬・伊藤内膳		55
56	諸事留帳(後欠)	明和4年4月26日改	袋綴	171	厚見万作		明和4年~天明6年2月後欠のため 安永8年まで	56
57	当家先祖壺号	明和5年4月	袋綴	5				57
58	風折烏帽子狩衣着用に付神道裁許状	明和5年9月6日	堅紙	1	神祇管領長上從二位卜部兼雄	厚見豊後守成之		58
59	風折烏帽子狩衣着用に付神道裁許状	明和5年11月5日	堅紙	1	神祇管領長上從二位卜部兼雄	厚見伊勢守源祐福		59
60	多聞天臨時之神事諸事留帳	明和6年2月	袋綴	11				60
61	卯辰村領産神本宮多聞天本社大破ノ為臨時之神事執行願ニ付加賀藩寺社奉行達書	明和6年2月	切続紙	1	伊藤内膳・永原求馬・篠原弥助	卯辰八幡神主豊後		61
62	別社天満宮神具為修覆臨時之神事執行願ニ付達書	安永4年4月	切続紙	1	永原求馬	卯辰八幡神主厚見豊後		63
63	別社稻荷社臨時之神事執行居宅修覆願ニ付達書	安永4年6月	切続紙	1	永原求馬	卯辰八幡神主豊後		64
64	臨時之神事執行願ニ付達書	安永5年4月	切続紙	1	中川八郎右衛門	卯辰八幡神主厚見豊後		65
65	万人講・普請方ニ付申渡等御達箇条書	(年未詳)	切続紙	1				66
66	別宮大山祇命於本社臨時之神事執行願ニ付達書	安永7年□月	切続紙	1	中川八郎右衛門	卯辰八幡神主厚見豊後		67
67	別宮金山彦命於本社臨時之神事執行願ニ付達書	天明2年8月	切続紙	1	横山又五郎	卯辰八幡神主厚見長門		68
68	御当地社家触頭役申渡状	(天明6カ)丙午2月2日	切紙	1	横山又五郎・篠原監物・西尾隼人	卯辰八幡神主厚見長門		69
69	多聞天臨時之神事執行大破修復ニ付達書	天明7年3月□日	切続紙	1	西尾隼人	卯辰八幡神主厚見長門		70
70	多門天本社大破ノ為大國玉命臨時之神事執行願ニ付達書	天明7年4月	切続紙	1	篠原監物	卯辰八幡神主厚見長門		71
71	神明宮正遷宮御入用御目録	天明7年12月	切紙	1				72
72	覚(祠堂銀利足取立及び受取ニ付)写	天明8年正月	切紙	1	篠原監物・松典膳・不彦三	卯辰八幡神主厚見長門		73
73	写覚(祠堂銀利足取立及び受取ニ付)	(天明8)戊申正月	切紙	1	篠原監物・松平典膳・不破彦三	卯辰八幡神主厚見長門		74
74	写覚(祠堂銀利足取立及び受取ニ付)	(天明8)戊申正月	切紙	1	篠原監物・松平典膳・不破彦三	卯辰八幡神主厚見長門守		75
75	別宮稻荷社大破ニヨリ臨時之神事執行願ニ付達書	天明8年7月	切続紙	1	松平典膳	卯辰八幡神主厚見長門		76
76	別社天満宮臨時之神事執行家内取続有之度願ニ付達書	寛政元年9月3日	切続紙	1	松平典膳	卯辰八幡神主厚見長門		77
77	多門天寺社大破ニヨリ臨時之神事執行修覆願ニ付達書(後欠カ)	寛政2年4月	切続紙	1	松平典膳			78
78	養父長門病死ノ為諸職相続願ニ付申渡状	寛政2年5月	切続紙	1	不破彦三・菊池大学・前田修理	卯辰八幡神主駿河		79

NO	文書標題	年代	形態翻訳	墨付点数	差出者	受取者	備考	(収納袋番号)
79	四組木綿手織之事許容状	寛政2年12月8日	折紙	1	神社管領	昭基		80
80	風折烏帽子狩衣着用に付神道裁許状	寛政2年12月8日	堅紙	1	神祇管領長上従二位卜部兼俱	厚見駿河正昭基		81
81	八幡宮・神明宮正遷宮被仰付押御紙面(厚見長門整理包紙のみカ)	寛政2年12月26日	一紙	1				82
82	父大宮司病死ニ付跡職相続願ニ付申渡状	(寛政3カ)辛亥8月26日	切続紙	1	不破彦三・菊池大学・前田修理	能州三崎猿女中務		83
83	多門天再建ノ処臨時神事執行造作願ニ付達書	寛政3年9月	切続紙	1	菊池大学	卯辰八幡神主厚見駿河守		84
84	源昭基従五位下丹波守叙任口宣案	寛政4年閏2月26日	堅紙	1	蔵人頭右中弁藤原良顕	源昭基	正五位下口宣案	85
85	源昭基従五位下丹波守叙任口宣案	寛政4年閏2月26日	堅紙	1	蔵人頭右中弁藤原良顕	源昭基	丹波守口宣案	86
86	源昭基従五位下丹波守勅許に付神道裁許状	寛政4年閏2月28日	堅紙	1	神祇管領長上従二位卜部朝臣(判)	野間神社神主源昭基		87
87	紫指貫之事着用御許容ニ付達書	(寛政4カ)子閏2月	折紙	1	鈴鹿出羽守・鈴鹿筑後守・鈴鹿近江守・鈴鹿土佐守	厚見丹波守		88
88	別社天満宮神具大破ニヨリ臨時神事執行修覆願ニ付達書	寛政4年4月	切続紙	1	品川主殿	卯辰八幡神主厚見丹波守		89
89	八幡宮等社頭造営千遷宮ニ而慶賀神事願ニ付達書	寛政4年4月	切紙	1	品川主殿	卯辰八幡神主厚見丹波守		90
90	臨時神事執行ニ付達書カ(前欠)	寛政4年8月晦日	切紙	1	前田修理	卯辰八幡神主厚見丹波守		91
91	稻荷明神神具大破ニヨリ臨時神事執行修覆願	寛政5年5月19日	切続紙	1	前田修理	卯辰八幡神主厚見丹波守		92
92	古今図鑑 古錢価附	寛政5年9月	木版(中本)	18	南紀青霞堂志友著	書林和歌山細工町 帯屋伊兵衛		93
93	臨時神事執行カ修覆願ニ付達書(前欠)	(寛政8)丙辰2月23日	切紙	1	前田修理	卯辰八幡神主厚見丹波守		94
94	稻荷明神神具大破ニヨリ臨時神事執行・修覆願ニ付達書	(寛政9カ)丁巳2月	切続紙	1	品川主殿	卯辰八幡神主厚見丹波守		95
95	辛酉歳互性相尅御祈禱願ニ付申渡状	寛政12年7月23日	一紙	1	寺社御用番前田修理	厚見丹波守		96
96	別社稻荷明神神具大破ニヨリ臨時神事執行修覆願ニ付達書	(享和元カ)辛酉5月	切紙	1	中川清六郎	卯辰八幡神主厚見丹波守		97
97	別社天満宮九百年回慶賀神事執行願ニ付達書	(享和2カ)壬戌2月	切紙	1	前田修理	八幡神主厚見丹波守		98
98	越中国砺波郡宮林村五社権現・神明宮兩社之祠官ニ付書状	(享和元～2カ)2月18日	折紙	1	品川主殿・中川清六郎・前田修理			99
99	卯辰山多門天神林之儀ニ付村方掛合一件	(文化元年カ寛政11以降)子2月	袋綴	10				100
100	別社稻荷明神神具大破ニヨリ臨時神事執行修覆願ニ付達書	(文化3カ)丙寅11月	切続紙	1	中川清六郎	卯辰八幡神主厚見丹波守		101
101	別社金山彦命神具大破ニヨリ臨時神事執行修覆願ニ付達書	(文化3カ)丙寅口月	切続紙	1	竹田掃部	卯辰八幡神主厚見丹波守		102
102	学校統御鎮守御用勤ニ付達書	(享和元～文化11カ)正月21日	切紙	1	中川清六郎	卯辰八幡神主厚見丹波守		103
103	風折烏帽子狩衣着用に付神道裁許状	文化11年11月11日	堅紙	1	神祇管領長上侍従卜部兼長	厚見丹波祐尚		104
104	多開天やね大破ニヨリ臨時神事執行修覆願ニ付達書	(文政5カ)壬午5月	切続紙	1	青山将監	卯辰八幡神主厚見丹波守		105

NO	文書標題	年代	形態翻訳	墨付点数	差出者	受取者	備考	(収納袋番号)
105	町方之者共ヨリ相撲興行致度旨社地借渡願承届ニ付達書	(文政8カ)酉9月	切続紙	1	前田式部	厚見備前守		106
106	町方角力社地貸渡願承届ニ付御達	(文政9カ)戌9月15日	切紙	1	玉井勘解由	厚見丹波		107
107	本宮多門天寺社大破ニヨリ臨時神事執行修覆願ニ付達書	(文政10カ)丁亥2月	切続紙	1	多賀与一右衛門	卯辰八幡神主厚見丹波		108
108	別宮稻荷社屋根大破ニヨリ臨時神事執行修覆願ニ付達書	(文政10カ)丁亥11月	切続紙	1	玉井勘解由	厚見丹波		109
109	町方曲生花見セ物致度旨社地貸渡願承届ニ付達書	(文政11カ)子7月11日	切紙	1	玉井勘解由	厚見丹波		110
110	越中社家触頭役不及兼帯候旨達書	(文政6~12の間カ)6月7日	切紙	1	多賀与一右衛門	厚見丹波		111
111	御神像祥月慶賀神事執行ニ付達書	(文政13カ)庚寅2月	切続紙	1	前田式部	卯辰八幡神主厚見丹波		112
112	祐明從五位下に付位記	文政13年8月30日	卷子		二品行中務卿幟仁親王宣・從四位上行中務大輔臣卜部朝臣行学奉・正四位下行中務少輔臣卜部朝臣久雄行	源朝臣祐明		113
113	源祐明從五位下備前守叙任口宣案	文政13年8月30日	豎紙	1	藏人頭右中弁兼皇太后宮亮藤原隆光	源祐明	從五位下口宣案 折封有り 祐明12代	114
114	源祐明從五位下備前守叙任口宣案	文政13年8月30日	豎紙	1	藏人頭右中弁兼皇太后宮亮藤原隆光	源祐明	備前守口宣案	115
115	從五位下源祐明任備前守宣旨	文政13年8月30日	豎紙	1	大外記兼掃部頭造酒正助教中原朝臣師徳	源祐明		116
116	源祐明從五位下備前守勅許に付神道裁許状	文政13年9月5日	豎紙	1	神祇管領長上正三位侍從卜部朝臣(判)	野間神社神主源祐明		117
117	日陰之事梅向立糸青白許容状	文政13年9月17日	折紙	1	神社管領	祐明		118
118	加賀前田家当主概覽表	文政13年調	一紙	1			利家~齊泰	119
119	町方曲馬并力持相催ニ付社地貸渡願承届ノ儀達書	(天保4カ)巳8月16日	切紙	1	前田式部	厚見備前守		120
120	町方之者稽古相撲興行ニ而社地貸渡願承届ニ付達書	(天保4カ)巳10月18日	切続紙	1	品川左門	厚見備前守		121
121	町方之者輕業興行ノ為社地貸渡願承届ニ付達書	(天保5カ)午11月1日	切紙	1	品川左門	厚見備前守		122
122	町方之者相撲興行ノ為社地貸渡願承届ニ付達書	(天保7カ)申5月9日	切紙	1	前田万之助	八幡神主厚見備前守		123
123	町方之者ひいとろ細工并こうた浄瑠璃興行ノ為社地貸渡願承届ニ付達書	(天保7カ)申9月5日	切紙	1	成瀬主税	厚見備前守		124
124	風折烏帽子狩衣着用に付神道裁許状	天保11年12月6日	豎紙	1	神祇管領長上侍從卜部朝臣	厚見日向祐春		125
125	野町神明社内ニ而竹田からくり見世物興業願ニ付達書	(天保12カ)丑7月17日	切続紙	1	篠原織部	高井周防守・高井陸奥守・厚見備前守・多田河内守		126
126	野町神明社内ニ而町方からくり見世物致度社地貸渡願承届ニ付達書	(天保14カ)卯5月	切続紙	1	織田左近	高井周防守・高井陸奥守・厚見備前守・多田河内守		127
127	町方浄瑠璃興業ニヨリ社地貸渡願承届ニ付達書	(天保5カ・弘化元カ)辰正月22日	切続紙	1	品川左門	厚見備前守		128
128	町方浄瑠璃興業ニヨリ社地貸渡願承届ニ付達書	(天保5カ・弘化3カ)午6月28日	切続紙	1	篠原監物	厚見備前守		129
129	町方角力興業ニヨリ社地貸渡願承届ニ付達書	(天保5カ・弘化3カ)午8月1日	切続紙	1	篠原監物	厚見備前守		130
130	元禄十二年百歳御神事留・寛政十年式百歳御神事留・弘化四年式百五拾歳御神事留	弘化4年2月	袋綴	24	(当職)源祐明			131

NO	文書標題	年代	形態翻訳	墨付点数	差出者	受取者	備考	(収納袋番号)
131	珠洲郡粟津村領北之谷内三崎御神領知用水堤御普請御入用図	弘化4年3月	切続紙	1	正院組粟津村肝煎惣右衛門外四名	多田六右衛門・明千寺村喜三兵衛		132
132	籠細工見セ物為致度願承届ニ付達書	(弘化4ヵ)未7月20日	切続紙	1	篠原監物	高井周防守・厚見備前守		133
133	町方曲馬ニ乗興業ニヨリ社地貸渡願承届ニ付達書	(嘉永2)酉閏4月11日	切続紙	1	篠原監物	高井周防守・高井陸奥守・厚見備前守・多田斉宮		134
134	覚(御元服御祝儀納金)	嘉永4年5月	切紙	1	神祇道本所吉田殿御用役所	御崎大宮司		135
135	老千百五拾年祭執行命令書写	(嘉永4)辛亥8月	一紙	1	前田内蔵助	卯辰八幡神社		136
136	御鎮守御用方・御社頭諸事留	弘化3年～嘉永5年	袋綴	230	厚見備前守			137
137	厚見備前守居宅明地ニ而輕業等見世物致度願承届ニ付達書	(安政4ヵ)巳10月	切続紙	1	前田外記	高井陸奥守・厚見長門守・厚見備前守・多田大和守・高井山城		138
138	年々社納方減少シ至極難澁ニ付勸化ノ儀願書控	(万延元以前)未7月28日	袋綴	5	厚見備前守	寺社御奉行所		139
139	町方糸からくり等興業ニヨリ社地貸渡願承届ニ付達書	(天保7ヵ・万延元ヵ)申2月	切続紙	1	品川左門	厚見備前守		140
140	父備前守病死ニ付跡職相続願ニ付申渡状	(万延元ヵ)庚申6月	切続紙	1	織田左近・品川左門・前田監物	卯辰八幡宮神主厚見日向		141
141	御用ニ付呼出状	(万延元前後)6月6日	切紙	1	織田左近	卯辰八幡宮神主厚見日向		142
142	榊葉神明宮等迂宮慶賀神事執行願ニ付達書	(文久元ヵ)辛酉10月25日	切続紙	1	篠原織部	卯辰八幡神主厚見日向		143
143	祐時從五位下に付位記	文久2年4月25日	卷子		二品行中務卿幟仁親王宣從四位上行中務大輔臣藤原朝臣敏直奉・正五位下行中務少輔臣藤原朝臣資生行	源朝臣祐時		144
144	源祐時從五位下丹波守叙任口宣案	文久2年4月25日	豎紙	1	蔵人頭右中弁藤原長順	源祐時	從五位下口宣案	145
145	源祐時從五位下丹波守叙任口宣案	文久2年4月25日	豎紙	1	蔵人頭右中弁藤原長順	源祐時	丹波守口宣案 祐時13代	146
146	從五位下源祐時任丹波守宣旨	文久2年4月25日	豎紙	1	大外記兼掃部頭造酒正助教中原朝臣師身	源祐時		147
147	日蔭之事可懸用ニ付吉田家許状	文久2年4月26日	折紙	1	神祇管領			148
148	官位御礼箇所及び位記・宣旨・口宣案等御渡添状	文久2年4月28日	折紙	1	山田幸記	加賀国河北郡野間神社神主厚見丹波守		149
149	源祐時從五位下丹波守勅許に付神道裁許状	文久2年4月28日	豎紙	1	神祇管領長上侍從卜部朝臣(判)	野間神社神主源祐時	折掛有り	150
150	星祭行事執行願ニ付達書	(文久2)壬戌6月	切紙	1	品川左門	厚見丹波守		151
151	星祭行事執行願ニ付達書	(元治元ヵ)甲子6月	切紙	1	前田将監	厚見丹波守		152
152	星祭行事執行ニ付達書	(慶応元)乙丑6月11日	切続紙	1	前田図書	卯辰八幡神主厚見龍之介		153
153	丹波守上京ニ付白銀御目録被下候条達書写	(慶応元以前)3月	切紙	1				154
154	神職相続申渡状	(慶応元)乙丑3月11日	切続紙	1	多賀源介(判)・中川式部(判)・前田図書左京	卯辰八幡神主厚見龍之介	多賀・中川・前田は寺社奉行封に朱で「星祭」	155
155	覚(天満宮御預ヶ毎年相備申候御供米等ニ付)	慶応2年4月	折紙	1	松原内匠	八幡宮神主		156
156	星祭行事執行願ニ付達書	(慶応2)丙寅6月	切紙	1	中川式部	厚見龍之介		157
157	厚見龍之介越中社家触頭当分加入申渡状	慶応3年7月	切紙	1	厚見龍之介			158
158	神事祭礼冠布斉服用に付所許状	慶応3年8月17日	豎紙	1	神祇管領從三位侍從卜部朝臣	三社神主祐次		159

NO	文書標題	年代	形態翻訳	墨付点数	差出者	受取者	備考	(収納袋番号)
159	風折烏帽子浄衣着用に付神道裁許状	慶応3年8月17日	縦紙	1	神祇管領従三位侍従卜部為義	厚見豊後祐次		160
160	狩衣着用許状	慶応3年8月	折紙	1	神社管領家公文所	厚見豊後源祐次		161
161	護身法	慶応4年閏4月	折紙	1	渡辺豊山和義・不破健五郎明富・岡山勝右衛門正勝	厚見右近之介		162
162	王政復古神仏混淆廃止ニ付別冊を以上申書控	(慶応4)辰5月	袋綴	5	厚見豊後	三浦八郎・不破亮三郎		163
163	社号并由来産子家数等書上申帳(下書)	明治2年6月	袋綴	14	厚見豊後			164
164	晴祭被仰付候ニ付達書	明治2年7月12日	切紙	1	藤沢三九郎・鳥正佐太夫	厚見豊後		165
165	御普請方留帳	明治2年9月24日	袋綴	6	卯辰神社職厚見豊後			166
166	加州神職触次申付状	(明治2)巳11月25日	切続紙	1	社祠方	厚見豊後		167
167	覚(御改革ニ付御最花代丁銭相渡候条)	明治3年3月	切紙	1				168
168	三浦俵三儀ニ付手継	明治3年3月	切続紙	1				169
169	当社普代神官ニ召抱ニ付達書	巳9月		0	卯辰八幡宮神職厚見豊後	組合頭大場幸九郎		170
170	石川郡笠間村笠間神社神職ニ被仰付候ニ付達書	午2月		0	卯辰八幡宮神職厚見豊後	組合頭大場幸九郎		171
171	三浦俵三履歴書	(年未詳)		0				172
172	笠間村江引越ニ付送状添書	明治3年3月		0	袋町相組合頭大場幸九郎	厚見豊後		173
173	白山神社御報賽ニ付祭式仮懸り申渡状	(明治3)庚午9月15日	切紙	1	社祠方	厚見豊後江		174
174	白山比咩神社報賽ニ付旅籠代被下候条達書	(明治3)庚午10月	切紙	1				175
175	白山比咩神社報賽ニ付四人旅籠代被下候条達書	(明治3)庚午10月	切紙	1				176
176	三州神職触次申付状	(明治3)庚午11月	切紙	1	庁掌	厚見豊後		177
177	譜代神官抱置三浦俵三人別元町へ指返に付願書	(明治4)辛未正月	罫紙		厚見矢貫	金沢藩庁		178
178	諸日記	明治4年11月17日	袋綴	8	厚見矢貫祐次			179
179	祭事ニ関スル書類綴	明治4年12月～大正4年10月3日	罫紙綴	79	県社卯多須神社々務所			180
180	卯辰神社御道具書上	明治6年3月	袋綴	2	厚見祐次			181
181	證(旧金沢藩ヨリ拝借金新貨ニ引直書)	明治6年3月	一紙	1	厚見祐次	石川県御庁(奥書)三田村		182
182	證(旧金沢藩ヨリ拝借金新貨ニ引直書)	明治6年3月	一紙	1	厚見祐次	石川県御庁(奥書)三田村		183
183	旧金沢藩ヨリ拝借米代銭金新貨ニ引直書	明治6年3月	一紙	1	厚見祐次	石川県御庁		184
184	旧金沢藩ヨリ拝借米代銭金新貨ニ引直書	明治6年3月	一紙	1	厚見祐次	石川県御庁		185
185	御教則	明治6年3月	袋綴	4	第14区八幡町厚見祐次	庶務教導事務係		186
186	上納金御猶予願之事	明治6年4月20日	罫紙綴	1	厚見祐次	石川県参事桐山純孝(奥書)三田村		187
187	歴代履歴書上控	明治6年4月	袋綴	6	厚見祐次			188
188	上納方猶予開届ニ付達書	明治6年6月15日	切紙	1	石川県			189
189	證(旧藩貸付初度納受取)	明治7年2月25日	切紙	1	石川県令内田政風	厚見祐次		190

NO	文書標題	年代	形態翻訳	墨付点数	差出者	受取者	備考	(収納袋番号)
190	絵本童幼早学 第二集	明治7年3月新刻	木版(小本)	36	横枕清七編 西尾慶治画 書肆 美玉堂発兌			191
191	皇典講究分所義務金指出方 依頼書	明治9年3月28日	罫紙	1	番長 厚見祐次	長谷檀・松本昌造・延村久見・金 峰茂利登		192
192	日本地誌略名称訓 卷之三	明治9年7月5日出版	木版(小本)	33	編集 川波友太郎(石川県越中国 小杉新町) 出版人 真田善次郎 (石川県越中国富山東四十物町)			193
193	雑書類一括	明治10年1月～20年3 月	罫紙綴	21	県宇多須神社々務所			194
194	御社頭年中行事	明治11年	袋綴	31	祠掌厚見祐次			195
195	上卯辰神社正遷宮祝詞	明治11年10月22日	袋綴	43	(厚見)			196
196	卯辰社末社琴平大神縁起	明治15年5月	罫紙綴	6	祠掌厚見祐次			197
197	西宮記	明治15年9月2日	袋綴	13	熊本藏(和彦)			198
198	西宮神社御分靈興渡行二用 度方帳・愛宕町鎮座菅原神・ 三番町社江合記	明治15年9月13日	長帳	6	厚見祐次			199
199	旅程祭・祈癒祭・祈癒賽祭・祈 雨祭・就奉職祈願各祝詞)	明治17年7月	罫紙綴	10				200
200	神官義務金納記	明治17年9月	袋綴	8	五番組			201
201	石川県皇典講究分所神官義 務金指出方依頼書	明治18年7月6日	罫紙	1	番長 厚見祐次	長谷檀・厚見与三男・厚見覚五 郎・松本昌造・延村久見・金峰茂 利登・橘好秋		202
202	石川県皇典講究分所神官義 務金	明治18年11月	罫紙綴	4	五番組番長厚見祐次			203
203	明治十八年下半ヶ年度教費 金	明治18年11月21日	罫紙	1	金沢神道事務局金沢幹事	久保市管直・厚見祐次・松本昌 造・延村久見・高井済好・田辺健 作		204
204	皇典講究分所義務金	(明治18年11月カ)	罫紙綴	3				205
205	教費徴収期限切迫に付差出 方依頼状	明治19年3月7日	罫紙	1	金沢神道事務分局金沢幹事	厚見祐次・久保市管直・長谷檀・ 杉本昌造・延村久見・高井済好		206
206	皇典講究分所義務金上納一 件綴	明治19年6月13日	罫紙綴	4				207
207	常備人義務金未納に付再督 促指出方依頼状	明治19年7月12日	切統紙	1	各神社備部取扱所幹事国府賤六 郎	厚見祐次		208
208	祝詞(出雲大社教会諱辞集上 終)写	明治24年4月	切統紙	1				209
209	維新前五代神社奉仕者及ひ 子孫ノ家譜相添御留控	明治25年5月	罫紙綴	8	厚見祐次	金沢市長稲垣義方		210
210	卯辰神社前社之拝殿梁簡棟 札写及執行覚	明治25年10月21日	一鋪	2				211
211	金沢卯辰八幡宮神主厚見家 譜	(明治28年カ)	罫紙綴	6	厚見祐次			212
212	金沢卯辰八幡宮神主厚見家 譜(御届本書控)	(明治28年以降カ)	合綴罫紙 等綴	29	厚見祐次			213
213	金沢卯辰八幡宮神主厚見家 譜	(明治28年以降カ)	罫紙綴	10	厚見祐次			214
214	卯辰社々格郷社昇進出願一 件綴	明治30年4月	罫紙綴(合 綴)	33				215
215	卯辰社神職家屋新築工事再 参入札書	明治30年6月23日	罫紙	1	野崎佐吉	卯辰社神職		216
216	出頭依頼状	明治32年1月25日	罫紙	1	石川県内務部第三課(印)	厚見祐次		217
217	枯松木伐採願(控)	明治33年2月14日	罫紙	1	卯辰社氏子総代10名・卯辰社々 掌	石川県河北郡長柴田是		218

NO	文書標題	年代	形態翻訳	墨付点数	差出者	受取者	備考	(収納袋番号)
218	卯辰社神職家屋新築工事契約心得書	明治33年6月	罫紙綴	2	金沢市鶯町請負人野崎佐吉 卯辰社掌厚見祐次			219
219	卯辰神社司官家屋新築工事契約心得書等綴	明治33年6月	罫紙綴		卯辰社々掌厚見祐次請負人金沢鶯町野崎佐吉		委任状 明治33年7月 金沢市鶯町野崎佐吉	220
220	卯辰社々格之義に付願一件綴	明治33年9月	紙縫り綴	29				221
221	卯辰社々格之義ニ付願(控)(後欠)	(明治34年9月以前カ)	罫紙	1				222
222	社格昇進ノ儀ニ付追願(控)	明治34年9月19日	罫紙	1	氏子総代拾名・社掌式名	石川県知事野村政明		223
223	證(古鏡御奉納ニ付控)	明治35年8月	一紙	1	宇多須神社社司厚見祐次・氏子惣代清水能郷	竹内利道		224
224	宇多須神社前道路変更一件綴	明治35年5月	紙縫り綴	4				225
225	宇多須神社前道路変更一件綴	明治35年5月	紙縫り綴	6				226
226	宇多須神社前道路変更願	明治35年5月	紙縫り綴	4	金沢市八幡町宇多須神社社司厚見祐次 金沢市御歩町氏子惣代清水能郷他9名	石川県知事野村政明		227
227	借用証書雛型綴	明治36年7月	罫紙綴	3	宇多須神社氏子惣代清水能郷外8名	吉田銀行行主吉田次太郎		228
228	加藤三男太郎儀養子縁組関係書類綴	明治41年11月～42年1月12日	罫紙綴	5				229
229	県社宇多須神社御由緒調査書	(明治カ)	袋綴	7	社司厚見祐次			230
230	県社宇多須神社御由緒調査書(後欠)	(明治カ)	一紙	1	社司厚見祐次			231
231	県社宇多須神社御由緒調査書(後欠)	(明治カ)	一紙	1	社司厚見祐次			232
232	社神明細書控	(年未詳)	袋綴	3				233
233	当家先祖代々霊号	(年未詳)	袋綴	9				234
234	厚見家系図考	(明治カ)	罫紙綴	2				235
235	御先祖代々書上	(年未詳)	罫紙綴	5				236
236	卯辰社維持方法	(明治カ)	罫紙綴	5	卯辰社氏子惣代横雲八五郎他9名卯辰社々掌厚見祐次・同厚見	石川県知事三間正弘		237
237	門前空地ニ四五軒家建候願ニ付申渡状	(元禄3以降)甲寅5月27日	切続紙	1	伊藤内膳	卯辰八幡神主紀伊		238
238	当社八幡宮鳥居類焼ニ付建立ノ儀重而御願書控	(宝永7以降)未4月29日	一紙	1	卯辰八幡神主厚見紀伊	御奉行所		239
239	多門天拝殿再興慶賀神事執行願ニ付申渡状	丁卯2月28日	切続紙	1	青山将監	卯辰八幡神主紀伊		240
240	越中射水郡串田村山本故馬人跡職入神主人撰一件ニ付達書(後欠)	癸亥5月	切続紙	1				241
241	名越祓神事執行願ニ付申渡状	戊辰6月	切続紙	1	中川式部	厚見豊後		242
242	加州宮之神主一所組下被仰付候ニ付達書	(寛文)子10月6日	折紙	1	横山式部・茨木右衛門・笹原織部	金沢卯辰山八幡神主紀伊守		243
243	少彦名社臨時神事執行中雨天ニ付日延願承届ニ付達書(後欠)	丑4月	切続紙	1				244
244	当庄胡橋御宮ニ神主無之ニ付書状	丑5月24日	折紙	1	□山□延武外四名	□□大宮		245
245	町方軍談彩興業承届ニ付達書	丑6月24日	切続紙	1	中川八郎右衛門	厚見丹羽		246

NO	文書標題	年代	形態翻訳	墨付点数	差出者	受取者	備考	(収納袋番号)
246	祐天満宮臨時神事ノ儀御上御凶事ニ付中止方再願承届候条申渡状(後欠)	丑6月	切続紙	1		(厚見丹羽守)		247
247	御姫君様御懐妊ニ付安産御祈禱執行ノ旨上申書	寅2月2日	一紙	1	卯辰八幡宮神主厚見丹羽	寺社御奉行所		248
248	御姫君様御懐妊安産御祈禱執行ニ付警護御足輕四人下方願書	寅2月2日	一紙	1	卯辰八幡宮神主厚見丹羽	寺社御奉行所		249
249	越中社家触頭兼帯申渡状	寅5月12日	切紙	1	中川八郎右衛門	厚見丹羽		250
250	金谷御広式御普請地鎮祭御祈禱料指上ニ付達書	卯2月	一紙	1		(卯辰八幡社頭)		251
251	神祇堂御改正復古ニ付星祭改メ旧式之通名越祓之神事与祭称ノ旨御聞届願	辰6月	一紙	1	厚見豊後	寺社御奉行所		252
252	阿賀野川流域大洪水の事ニ付書状	辰8月15日	切続紙	1	桂東吾	葛原出雲守		253
253	御霊祭御入用方控帳	辰11月	袋綴	10				254
254	御霊祭御入用方控帳	辰11月	袋綴	7				255
255	御霊祭入用器械願書寺社奉行所江書出候控	辰12月	袋綴	5				256
256	不作ノ為祈禱ニ付達書写二通	巳3月	一紙	1				257
257	祈禱被仰付祈禱料金三両卯辰八幡神社江被下こう候旨民政寮等知事江達書写	巳7月	一紙	0				258
258	祈禱ノ儀承知致御取懸り御祈禱料渡ニ付達書写	7月29日	一紙	0	岡本三郎太夫外一名	厚見豊後		259
259	卯辰八幡宮神主相對勸化ニ付写二通	未9月	一紙	1				260
260	能美石川両郡追付勸化ノ儀ニ付願書	未9月17日	一紙	0	卯辰八幡宮神主厚見豊後守	寺社御奉行所		261
261	卯辰八幡宮神主相對勸化ノ儀支配役人江申渡ニ付達書	未9月22日	一紙	0	本吉中島伊太夫外一名	多賀宇兵衛		262
262	八幡宮造営ニ付富突興行願承届候条申渡状写	申9月	切紙	1				263
263	天満宮臨時神事雨天ニ付重而願承届候条申渡状	酉9月	切続紙	1		丹波江		264
264	職分出精寄特ニ付立烏帽子被下候条達書	戌5月	折紙	1	鈴鹿信濃守・鈴鹿陸奥守・鈴鹿但馬守・鈴鹿石見守	厚見丹波守		265
265	官位昇進苗字披露願承届ニ付申渡状	戌12月	切紙	1	品川左門	卯辰八幡宮神主石見丹波守		266
266	高倉宮屋ねこけらふきニ付書状	2月4日	折紙	1	山口政五口	三崎川端外八名		267
267	聖堂御造営木作初御観式日程ニ付達書	2月9日	切紙	1	矢部友右衛門	厚見駿河		268
268	御城御造営地鎮祭御祈禱ニ付申渡状	2月13日	切紙	1		(美濃守)		269
269	御用ニ付召符	2月17日	切紙	1	津田玄蕃	卯辰八幡神主厚見龍之介		270
270	卯辰八幡宮社内ニ落有候銀子ニ付公事場奉行中川八郎右衛門ヨリ由来候条達書	寅11月27日	切紙	1	横山又五郎	卯辰八幡神主長門		271
271	御城地鎮祭御祈禱ニ付達書	2月23日	切紙	1	岡本三郎太夫・藤沢三九郎	卯辰八幡神主厚見龍之介		272
272	地鎮祭金谷御門江御入り相立候儀ニ付書状	2月25日	切紙	1	岩原五右衛門・岡本三郎太夫	厚見龍之介		273

NO	文書標題	年代	形態翻訳	墨付点数	差出者	受取者	備考	(収納袋番号)
273	御上京ニ付御武運長久等御 祈禱ノ儀達書写	2月	切紙	1				274
274	改曆之嘉祥当地別条無之儀 等ニ付書状	2月	折紙	1				275
275	御代拝刻限ニ付達書	3月15日	一紙	1	宮川久兵衛	八幡宮社司		276
276	地鎮祭御祈禱白銀相渡ニ付 達書	3月28日	切紙	1	岩本五右衛門、岡本三郎太夫	厚見龍之介		277
277	御神事警固ノ儀ニ付達書	閏3月3日	切紙	1	小原貞次郎・西川七郎左衛門	厚見丹波		278
278	留守中御鎮守御用安江八幡 神主厚見伊豆守相勤候儀ニ 付達書	4月25日	切紙	1	品川主殿	厚見丹波守		279
279	御社去秋損ニ付書状	4月20日	折紙	1	山崎半左衛門	三崎大宮		280
280	為格中御尋御肴一折被送候 ニ付書状	5月2日	折紙	1	鈴鹿信濃守・鈴鹿陸奥守・鈴鹿但 馬守・鈴鹿石見守	厚見丹波守		281
281	覚(表御式台虎之御[]出 来ニ付祈禱料)	5月11日	一紙	1				282
282	御屋宅御祈禱之御礼等ニ付 達書	5月14日	切紙	1	笠間伊太夫・斎藤利太夫	厚見豊後		283
283	卯辰八幡宮鳥居類焼ニ付再 建願聞届候条達書	5月15日	切紙	1	奥村内記	永原左京		284
284	御嫡男元服御祝儀ニ付書状	5月20日	折紙	1	鈴鹿中務	御崎大宮司		285
285	官名改ニ付書状	5月24日	折紙	1	鈴鹿下野守・鈴鹿信濃守・鈴鹿筑 前守	厚見豊後守		286
286	御城中ニ御礼集候ニ付請取ノ 旨達書	6月4日	切続紙	1	会所	八幡神主紀伊守		287
287	加役之儀中四年ニ而可相候 旨書状	6月10日	折紙	1	大角勘解由	厚見丹波守		288
288	官名改ニ付書状	6月24日	折紙	1	鈴鹿周防守	厚見豊後守		289
289	芝居興業ノ儀ニ付達書	6月	切紙	1	町奉行			290
290	常照院様御遺物御書千種刑 部卿江相届候旨達書	6月26日	折紙	1	横山左衛門・奥村因幡・前田对 馬・長九郎左衛門・本多安房	生駒伊兵衛・別所八右衛門		291
291	養父長門殿病死ニ付家督相 統触頭役等申渡ノ旨書状	7月4日	折紙	1	鈴鹿織部丞	厚見駿河		292
292	養父長門殿病死ニ付家督相統 触頭役等申渡候条書状	7月4日	折紙	1	鈴鹿出羽守・鈴鹿筑後守・鈴鹿近 江守・鈴鹿土佐守	厚見駿河		293
293	若様御道中安全御守指上願 ニ付達書	7月6日	一紙	1	岡本三郎太夫・坂井仙之丞	厚見豊後		294
294	相原老状中折紙三束ノ儀ニ 付達書	7月8日	切紙	1	窪田九郎兵衛	八幡宮紀伊守		295
295	覚(幣・注連八幡宮ヨリ勸請ニ 付)	7月8日	切紙	1	窪田九郎兵衛			296
296	社塔御建立願書付ニ達書	7月19日	切紙	1	岡島市郎兵衛	撰津		297
297	覚(御安産祈禱備物請取ニ付 控)	7月21日	切紙	1	八幡厚見紀伊守	杉江兵助・由比五郎左衛門・窪田 九郎兵衛門		298
298	芝居興業願ニ付達書	7月28日	切紙	1	品川左門	高井周防守・高井陸奥守・厚見備 前守・多田河内守		299
299	不順気ニ付祈晴祭申渡御祈 禱覚書写	7月	一紙	1				300
300	黒津舟小浜神社祭礼ニ付達 書	6月	切続紙	1		(厚見豊後)		301
301	八幡祭礼頂戴品御礼等ニ付 書状	8月15日	折紙	1	横山城守	八幡神主紀伊守		302
302	御祈禱御礼守等ニ付達書	8月18日	切紙	1	高橋信次郎・岡本三郎太夫	厚見丹波守		303

NO	文書標題	年代	形態翻訳	墨付点数	差出者	受取者	備考	(収納袋番号)
303	御祈祷御渡二付達書	8月22日	切紙	1	岩原五右衛・藤原三九郎	卯辰八幡神主厚見丹波守		304
304	珠洲郡内氏神御神子ノ儀ニ付書状	8月22日	折紙	1	清水伊予・大森伊賀	舟木大宮		305
305	御用儀有之御家来差向ニ付達書	10月13日	切紙	1	窪田九郎兵衛	八幡紀伊守		306
306	幣・注連御調候義ニ付達書	10月13日	切続紙	1				307
307	御産後御祈祷加入覚	10月19日	切紙	1	永原左京・篠原織部	紀伊守		308
308	御時勢武運長久祈祷御礼指上ニ付申渡状	10月	切紙	1				309
309	御裁許状願ニ付書状	11月6日	折紙	1	鈴鹿石見守・鈴鹿丹波守・鈴鹿下野守・鈴鹿筑前守	厚見豊後		310
310	覚(今般非常御改革ノ折柄御神供料ニ付達書)	11月25日	一紙	1	問遺方	厚見豊後		311
311	覚(遷宮入用銀ニ付申渡)	閏11月	切紙	1				312
312	継目御許状ニ付名代上京ノ儀ニ付書状	12月8日	折紙	1	鈴鹿織部丞	厚見長門		313
313	新年賀状	正月2日	折紙	1	光超(判)	加賀中将		314
314	慈雲寺境内桜木伐木願書扣	閏4月24日	袋綴	4	厚見豊後	慈雲寺		316
315	宇多須神社社司拜命に付挨拶状	4月	切紙(印刷)	1	別格官幣社尾山神社禰宜・県社宇多須神社社司・県社須須神社囑託厚見幸雄	氏子各位		317
316	御の矢一手奉納状	壬寅5月15日	切紙				包有「越中神職替々八幡宮神事罷出候様」	318
317	御の矢一手奉納状	壬寅5月15日	切紙	1				319
318	前田利常礼状(八幡神主祈祷礼・鯛到来に付)	6月1日	堅紙	1	利常(判)	今枝与右衛門・内藤清兵衛		320
319	社造営出来慶賀神事執行願に付許可申渡状	壬辰6月	切続紙	1	伊藤内膳(印)	卯辰八幡神主厚見豊後		321
320	八幡宮愛宕道拓幅に付書状	7月9日	折紙	1	成瀬内蔵助	生駒監物・松平采女		322
321	祭日御城にて亀鶴様・犬千代様振舞につき書状	7月12日	一紙	1	(横山)山しろ(判)	おつほね(御局)		323
322	県社宇多須神社建物坪数表	8月30日	罫紙	1	社司厚見祐次			324
323	八幡宮祈祷祭礼に組下社人參出申渡に付礼状	9月12日	折紙	1	関伊豆守 正口(判)	篠原織部内青地左衛門永原左京内 木村与兵衛	篠原・永原は寺社奉行	325
324	立烏帽子着用許状	子9月	折紙	1	鈴鹿石見守・鈴鹿丹波守・鈴鹿下野守・鈴鹿筑前守	厚見豊後		326
325	卯辰山多聞天相殿・弁財天千百歳慶賀神事執行願に付許可申渡状	巳未9月	切続紙	1	品川主殿(印)	卯辰八幡神主厚見丹波守		327
326	新知拝領祝に付肴・酒進上書	10月11日	折紙	1	藤原光正朝臣			328
327	大蔵太輔勝手方簡略に付当分御札差止申述書	11月1日	折紙	1	浅野五郎左衛門守兄(判)	厚見撰津	包有「富山様寺社奉行所紙面入」	329
328	堅固及び小鞆皮・蒸蝶に付礼状	12月16日	折紙	1	酒井雅楽頭忠清(判)	松平飛騨守		330
329	年頭御鏡餅料并神酒代御渡に付請取切手	12月18日	切紙	1	元御役社にて御用弁方	厚見矢那		331
330	年頭鏡餅并年中神酒代書上	12月	切続紙	1				332
331	社頭類焼ニ付仮殿造営ニヨリ拝借金願ニ付申渡候	(年未詳)	切紙	1				333
332	厚見撰津官位昇進ノ儀取持御頼ニ付書状控	(年未詳)	折紙	1				334
333	太護摩行法加行次第	(年未詳)	折紙	1				335

NO	文書標題	年代	形態翻訳	墨付点数	差出者	受取者	備考	(収納袋番号)
334	太護摩行法加行次第	(年未詳)	折紙	1				336
335	宗源行法加行次第	(年未詳)	折紙	1				337
336	宗源行法加行次第	(年未詳)	折紙	1				338
337	梅ノ御礼並びに春涙ヲ催候事ニ付書状	(年未詳)	切紙	1	裏	雪堂老人人々		339
338	妙薬御出シ可被下月末御邪魔可仕旨等ニ付書状	(年未詳)	切続紙	1	裏	小伝老兄世話日覧		340
339	祝詞	(年未詳)	断簡	1				341
340	神像	(年未詳)		1				343
341	修理料村高割付状(前後欠)	(年未詳)	続紙					344
342	十八神道加行次第	(年未詳)	折紙	1				345
343	県社宇多須神社由緒調査書	(年未詳)	こより綴	1				346
344	卯辰山多聞天千歳慶賀神事執行願に付許可申渡状	(年未詳)	切続紙	1	品川主殿(印)	卯辰八幡神主厚見丹波守	品川主殿は寺社奉行	347
345	金四百拾五円四拾銭割当高書上	(年未詳)	罫紙綴	2				348
346	行列付帳	(年未詳)	表帳	4				349
347	御国御長久等浄珠院様祈願に付祈禱申付状	(年未詳)	切紙	1			後欠か	350
348	卯辰社本社拝殿八十分之一縮図	(年未詳)	一枚(木版)	3				351
349	狛犬図	(年未詳)	一折	2			石工 福嶋伊之助	352
350	宇多須神社配置図	(年未詳)	一紙	2				353
351	越智神社祭神訂正願に付書上	(年未詳)	罫紙	1			後欠	354
352	祝詞覚書	(年未詳)	罫紙綴	19				355
353	県宇多須神社鎮座千二百年祭祝詞	(年未詳)	原稿用紙	2				356
354	前田利為寄附金(折封のみ)	(年未詳)	(折封)	1	侯爵 前田利為		「金壹百円」	357
355	厚見備前守宛書状(前欠)	(年未詳)	切続紙	1	厚見備前守		充名のみ	358
356	新版伊呂波繰苗字尽	(年未詳)	木版(小)	14				359
357	大日本国尽(錯簡)	(年未詳)	木版(小)	10				360
358	新版改正町名づくし(金沢)	(年未詳)	木版(小)	13				361
359	大栄節用福寿蔵(前後欠)	(年未詳)	木版(大)	99	編(勝村常喜)画(下河辺拾水)			362
360	金子書上覚	(年未詳)	罫紙					363
361	治田大明神御宝前拓本	(年未詳)	続紙	1			「正安2年3月吉日」	364
362	鏡拓本	(年未詳)	一紙	1				365
363	五番組交名	(年未詳)	罫紙	1				366
364	慈雲寺草生地境界標綴	(年未詳)	紙縫り綴	5	春日町四丁目三上嘉幸・近江町山宮六三郎			367
365	利常公御判物等五通包封	(年未詳)	一紙	1				368
366	美濃守代包封	(年未詳)	切紙	1				369
367	吉田宛包封	(年未詳)	一紙	1	紀伊守	吉田		370
368	前豊後守代包封	(年未詳)	一紙	1				371
369	神主衣裳覚書	(年未詳)	袋綴	3				372

NO	文書標題	年代	形態翻訳	墨付点数	差出者	受取者	備考	(収納袋番号)
370	卯辰山奥社建絵図	(年未詳)	切紙	1			20分の1図面	373
371	祭神神道裁許状	(年未詳)	切紙	4	①②神祇管領長上侍従卜部兼連 ③④神祇管領長上従二位卜部朝臣兼敬			374
372	講案(三條ノ御經典)	(年未詳)	袋綴	6				375
373	講案(三條ノ御經典)	(年未詳)	袋綴	4				376
374	講案(皇上奉戴・朝旨遵守)	(年未詳)	袋綴	4				377
375	講案(天理・人道)	(年未詳)	袋綴	4				378
376	講案(愛国)	(年未詳)	袋綴	3				379
377	講案(神国)	(年未詳)	袋綴	8				380
378	祝詞	(年未詳)	紙縫り綴	4				381
379	建物図	(年未詳)	一紙	1				382
380	講案(説教開講)	(年未詳)	袋綴	4				383
381	神名覚書	(年未詳)	紙縫り綴	17				384
382	神名等覚書	(年未詳)	袋綴	7				385
383	いろは尽等往来物	(年未詳)	木版	90				386
384	宇多須神社境内図	(年未詳)	一紙	1			額入り	387

宇多須神社関係資料

- | | | |
|---|------|---|
| 1 | 種別 | 有形文化財 歴史資料 |
| 2 | 名称 | 宇多須神社関係資料 |
| 3 | 員数 | 曳山の龍頭1体、刀剣類4口、弓2張、矢20本、矢籠 ^{しこ} 2組、和鏡1枚、三段重2組、水器 ^{すいき} 1対、花瓶1対、瓶子 ^{べいし} 5対、ガラス乾板4枚、写真2枚 |
| 4 | 所在地 | 金沢市東山1丁目30番8号 |
| 5 | 所有者 | 宗教法人 宇多須神社 |
| 6 | 年代 | 室町時代から昭和時代（前期） |
| 7 | 指定理由 | |

宇多須神社は、浅野川のほとりの小丘から出た古鏡の裏面に卯と辰の文様があったことから卯辰神と称して、養老2年（718）に多聞天社として創建されたのを始まりとする。慶長4年（1599）に、2代藩主前田利長が、金沢城の鬼門の方角である現在地に卯辰八幡宮を建立した。祭神は越中国守山に在城していた時に信仰していた海老坂（富山県高岡市）の物部八幡宮と、阿尾城（富山県氷見市）鎮守の榊葉神明宮の神霊を祀ったもので、同時に藩祖利家の神霊も密かに祀り、代々藩主の祈祷所として崇敬を集めた。それゆえ、当社の神主であった厚見氏は、他の神職とは格別の地位にあり、江戸時代初期から触頭として石川・河北郡の神社を統率する立場にあったことが知られる。明治2年（1869）に高皇産霊社^{たかみむすびしや}と改め、同5年に卯辰社と改称している。同6年には旧金谷御殿の跡地に創建された尾山神社に利家の神霊を遷座し、同33年に宇多須神社と改称して、同35年には県社に昇格している。

龍頭は慶応3年（1867）の天満宮遷座祭に合わせ木町四番丁（金沢市東山）が製作した宝船型曳山^{ひきやま}の先端部分である（注1）。木町界限で権威のある神社として宇多須神社が曳山を保管していたが、明治前半に当社が火災に見舞われたことにより本体は焼失し、現在は飾りの龍頭のみが残る。丁寧な作り込みからは当時の金沢町人の意気込みがうかがえ、金沢の失われた曳山文化を伝える貴重な資料となっている。

武具類は武運長久を祈願するために奉納されたものと考えられる。

短刀・剣・脇差・太刀の4口の刀剣は、いずれも金欄^{きんらん}の施された鞘袋が付属し、奉納先の地位の高さを示している（注2）。また、脇差には極書が付属する。

2張の弓は黒漆塗りで、籐の間隔をあけてまばらに巻いた村重籐弓^{むらしげとうのゆみ}と

呼ばれる形態のものである。弦がついているのは片方のみで、塗弦が用いられる。

10本の矢は戦に使用する三立羽で、^{やじり}鏃の形状は木葉形と^{もくようなり}櫛形^{かいなり}の2種類がある。矢籠は木製の本体に上部に矢を差し入れるための穴が開いた鉄板がつく。籠の下部は^{からかわ}唐革で作られ、前田家の家紋が施される（注3）。

和鏡は、鏡背に松・竹・南天に鶴亀のほか、葵の紋が2箇所につく。下部には柄があり、化粧鏡を神鏡に仕立てたものとみられる（注4）。

黒漆塗り三段重は2組あり、いずれも江戸時代のもと考えられる。それぞれ赤色と黄色で梅鉢紋があしらわれ、「卯辰大宮」と記す。

水器、花瓶ならびに瓶子は、祭器として奉納されたものと考えられ、いずれも梅鉢紋が施されている。色絵の花瓶は、銘が入っていないが、意匠や技法より明治期に作られたものとみられる。瓶子には慶応3年^{しょう}に松齡堂陶山^{れいどうとうざん}（注5）によって作られたもの、鶯谷窯の野崎佐吉^{しょう}（注6）ら3名の連名で奉納されているもの、同じく鶯谷窯の忠水^{しょう}（注7）の銘があるものなどがあり、近代九谷の陶工とのつながりがうかがえるものとなっている。

ガラス乾板4枚は、いずれも宇多須神社境内を撮影したもので、このうち2枚を焼いた写真が付属する。近代の宇多須社の様子が分かるものとなっている。

宇多須神社には、藩祖利家を祀る神社として信仰されてきたことを示す藩政時代の武具や祭器などの什物が多く残り、近代に入っても前田家を強く意識した奉納品が現存する。古文書と合わせて、金沢で、前田家との関わりが極めて深い神社に伝来した資料群として貴重である。

■注記

（注1）金沢の曳山文化は、19世紀初頭に一時的に開花したが、前田利長ゆかりの^{みくるまやま}御車山に誇りを持つ高岡町人の批判などにより、以降は衰退していった。再び巡行するのが、天満宮遷座祭の時で、この時木町では菊慈童・西王母・宝船をモチーフにした3台の曳山が作られた。一番大きな曳山が宝船型曳山で、七福神の等身大の人形を乗せていた。他の二台は小ぶりのもので、太鼓を叩きながら歩く太鼓車に類するものだった。現在は宝船曳山の龍頭のほか、菊慈童曳山が木町一番丁町会の倉庫に保管されている。

（注2）指定範囲は刀身のほかに、拵えやはばき、鞆袋を含む。

（注3）一組は革の両面に剣梅鉢紋を凹形に打ち込み、この上に金箔で剣梅鉢紋と輪宝紋（インドの仏教思想に出てくる武器の一種の形）をあしらう。一組は、革に三目結紋を凹形に打ち込み、この上に剣梅鉢紋と輪宝紋をあしらう。

（注4）指定範囲は和鏡本体のみで、支持台は含まれない。

(注5) 内海吉造のこと。陶工鍋屋吉兵衛の子で、幼いころより父に従い色絵や赤絵金彩を学び、小松の小野窯や金沢の熊走窯に従事した。明治2年に阿部碧海が士族授産のために築いた古寺町（現在の金沢市片町2丁目）の錦窯で工場長として活躍する。阿部工場閉鎖後は工場を引き継いで明治13年に為絢社を起し、友田安清などの陶画工を養成した。

(注6) 鶯谷窯は、明治4年に旧藩士の前田肇と久田宗兵衛が鶯谷に陶窯を築いたのを始まりとする。野崎佐吉は鶯谷窯の3代目の経営者で、はじめ大樋焼の陶工で能登屋吉左衛門と名乗った。その後京都の錦光山窯で製陶を学び、明治18年に鶯谷庄米に鶯谷窯を譲り受け作陶した。

(注7) 富田忠男のこと。明治38年に野崎佐吉より鶯谷窯を譲り受け作陶する。灰釉の陶器を工業的に製造して金沢の九谷焼業者へ素地として供給する傍ら、焼きと称する軟陶類を作った。



1 宝船型曳山の龍頭



2 短刀



3 剣



4 脇差



5 太刀



6 村重藤弓



表面



裏面

7 矢と矢籠



8 和鏡



9 黒漆塗梅鉢紋三段重



10 梅鉢紋水器



11 色絵梅鉢紋花瓶



12 赤絵金彩梅鉢紋瓶子



13 梅鉢紋瓶子



14 黒漆塗梅鉢紋瓶子



15 梅鉢紋瓶子



16 梅鉢紋瓶子



17 ガラス乾板

18 写真

■宇多須神社関係資料

番号	名称	寸法	年代	点数	備考
1	宝船型曳山の龍頭	高さ900mm 奥行700mm	慶応3年	1体	
2	短刀	全長405mm 刃の長さ298mm	室町時代	1口	拵え、はばき、鞆袋を含む
3	剣	全長381mm 刃の長さ271mm	室町時代	1口	はばき、鞆袋を含む
4	脇差	全長506mm 刃の長さ373mm	(年未詳)	1口	はばき、鞆袋、「雷除」の由緒書き(旧番号295)を含む
5	太刀	全長876mm 刃の長さ670mm	(年未詳)	1口	はばき、鞆袋を含む
6	村重藤弓		江戸時代後期	2張	
6-1		長さ2170mm			弓弦有り
6-2		長さ2125mm			弓弦無し
7	矢と矢籠	矢:長さ900mm 矢籠:高さ640mm	江戸時代後期	矢20本 矢籠2組	
8	和鏡	直径30cm	江戸時代後期	1枚	
9	黒漆塗梅鉢紋三段重	長辺272mm 短辺166mm 高さ165mm	江戸時代後期	2組	「卯辰大宮」
9-1					梅鉢紋・文字を黄字で表記したもの
9-2					梅鉢紋・文字を赤字で表記したもの
10	梅鉢紋水器	高さ115mm 口径79mm 胴径120mm 底径90mm	(年未詳)	1対	
11	色絵梅鉢紋花瓶	高さ397mm 口径175mm 胴径180mm 底径137mm	(年未詳)	1対	「寄進 松田善兵衛」
12	赤絵金彩梅鉢紋瓶子	高さ243mm 口径60mm 胴径102mm 底径95mm	慶応3年	1対	「松齡堂陶山敬製」
13	梅鉢紋瓶子	高さ285mm 口径38mm 胴径180mm 底径122mm	大正6年	1対	「慕元 忠水 富田忠男」□目七 久太郎 紋付奉納」
14	黒漆塗梅鉢紋瓶子	高さ253mm 口径42mm 胴径170mm 底径121mm	(年未詳)	1対	「奉納 大垣 元訓」
15	梅鉢紋瓶子	高さ258mm 口径36mm 胴径160mm 底径105mm	(年未詳)	1対	「泉 伊右衛門」「鶯谷忠水」(印)
16	梅鉢紋瓶子	高さ254mm 口径38mm 胴径160mm 底径111mm	(年未詳)	1対	「奉納 野崎佐吉 小林徳藏 黒川豊作」
17	ガラス乾板	160mm×120mm×2mm	(年未詳)	4枚	
17-1					社殿(正面から撮影(近景))
17-2					社殿(正面から撮影(遠景))
17-3					社殿(北側から撮影)
17-4					宇多須神社境内
18	写真	149mm×118mm	(年未詳)	2枚	
18-1					17-2を焼き付けたもの
18-2					17-4を焼き付けたもの